

- 一 田地家屋ヲ貸シテ地代宿賃ヲ獲ル事
- 一金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事
- 一 所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣拂事

▲明治十一年一月海軍省丙第十七號達

官吏商業不相成儀ハ明治八年四月中第六十五號公達ノ趣モ有之候處軍人軍屬ノ儀ハ一等卒以下ト雖モ軍艦乗組等級表ニ列載スル者ハ自今左ノ通可相心得此旨相達候事

一 他ノ物品ヲ買入之ヲ餘人ニ賣以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ義一切禁止ノ事

▲明治八年八月第五百五十二號(院省使廳府縣)達

官地官林及ヒ不用ノ物品等公ケン入札法ヲ以テ拂下候節其官廳ニ屬スル官員ニ限リ本人ハ勿論其代理人ト雖モ投票爲致候義不相成候條此旨相達候事

▲明治十四年五月第三十七號(官省院使廳府縣)達

官吏商業區分ノ儀ニ付テハ兼テ相達候趣モ有之候處自今道路河港ノ修築海陸ノ運輸土地ノ開墾及ヒ殖産ノ事業ヲ以テ目的ト爲シ設立スル會社ノ株主トナルハ不許候條此旨相達候事

▲明治十四年五月陸軍省達乙第二十八號達

官吏商賈ノ營業不相成儀ハ明治八年第六十五號ヲ以テ御達相成居候處今般後備軍艦員(諸管廳ニ奉職スル判任官以上ノ者ヲ除ク)ニ限リ營業被差許候ニ付其業体ニ依リ認可スベキ旨御達相成候條自今右望ノ者ハ其業体ヲ詳悉シ所管鎮臺ヲ經テ當省ヘ可申出此旨相達候事

但營業上ニ付テハ其官名ヲ稱スルヲ不得儀ト可相心得事

▲明治十一年十二月内務省乙第八十號(府縣)達ノ内第四項

一 郡區長書記ハ一般ノ官吏ト同ク商賈ノ營業相成サル儀ト心得ヘシ

○第十一款 官吏懲戒例

明治十二年一月第四號 (官省院使廳府縣)達

明治九年(四月)第三十四號達官吏懲戒例第四條左ノ通改定候條此旨相達候事

第四條 罰俸ハ一月分十分ノ壹ヨリ少カラス三月分ヨリ多カテサルノ俸

ヲ奪フ
俸ヲ追テタルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追テ其以上ハ每月給俸ノ半額ヲ額置シ數滿テ大藏省ニ送付ス

▲明治十一年十一月内務省乙第七拾八號(府縣)達ノ内第三項

○第一類 ○行政法 ○官吏懲戒例

△郡區長及書記職務上ノ過失アラハ官吏懲戒例ニ依リ處分スベシ

▲明治十八年三月内務省第四號(府縣)達

戸長職務取扱上過失アルトキハ總テ官吏懲戒例ニ依リ處分スベシ但明治十一年乙第八拾號達第五項ハ廢止ス
右相達候事

○第十二款 華族懲戒例
明治十八年一月十日
號外(華族一般)一達

今般華族懲戒例左ノ通改正候條此旨相達候事

華族懲戒例

- 第一條 華族ノ品位ヲ保護スル爲ニ懲戒處分ノ例ヲ設ク
- 第二條 華族懲戒ノ權ハ之ヲ宮内卿ニ委任シ上裁ヲ得テ處分ヲ行ハシム
- 第三條 公ニ風教ヲ乱リ又ハ家産ヲ浪費シ華族ニ必要ナル品位ヲ失フ者ハ懲戒ノ處分ヲ行フヘシ但懲戒ノ限ニ在ラス
- 第四條 懲戒ヲ分テ三種トス
 - 第一 謹責
 - 第二 謹慎
 - 第三 除族
- 第五條 謹責ハ宮内卿ヨリ謹責書ヲ付シ戒悔スル所アラシム

第六條 謹慎ハ十日以上一年以下外出ヲ禁シ自宅ニ於テ謹慎ヲ守ラシム
第七條 失行重大又ハ懲責ヲ受テ猶ホ悛改ノ跡ナク華族ニ必要ナル品位ヲ有ツコト能ハサル者ハ其族ヲ除クベシ

此條ハ刑法第三十一條ト相抵觸スルコトナシ

第八條 前條ノ場合ニ於テ情輕キ者ハ子孫又ハ他ノ親屬ヲシテ儆ヲ蒙カシムベシ親屬ナキ者ハ家ヲ除ク

第九條 華族ノ戸主ハ其子弟及ヒ家屬ヲ檢束スルノ責ヲ負フベシ

第十條 華族ノ戸主幼年ナル者ハ後見人代テ其子弟及家屬ヲ檢束スルノ責ヲ負フベシ

第十一條 華族ノ子弟及家屬ニシテ第七條ニ當ル者ハ其身ノミ華族ノ屬籍ヲ除クヘシ

第十二條 華族ノ犯罪輕罪以上ニ觸ル、者ハ司法ノ裁判ヲ經タル後其情狀ニ從ヒ更ニ懲戒ノ處分ヲ行フベシ

第十三條 前條ノ場合ヲ除ク外懲戒處分ヲ行フニハ豫メ本人ニ通知シ其事情ノ審問ヲ必要トシ又ハ本人ヨリ審問ヲ請求スルトキハ宮内卿ハ上旨ヲ得テ華族五人ヲ撰任シ審問委員トナシ審問シテ狀ヲ具ヘ上申セシムヘシ

○第一類○行政法○華族懲戒例

第七條 第十一條ノ場合ニ於テハ本人ノ請求スルトセサルトニ拘ラズ審問ヲ經ルヲ必要トス

第十四條 審問委員ハ宮内卿ヨリ下附シタル事件ノ外ニ涉リ審問スルコトヲ得ズ

第十五條 華族ノ犯罪司法ノ裁判ヲ經放免セラレタル者仍ホ其情狀ニ從ヒ懲戒ノ處分ヲ行フコトアルヘシ

第十六條 華族懲戒ノ處分ハ不服ヲ以テ太政官ニ請願シ又ハ裁判所ニ控訴スルコトヲ得ス

第十七條 華族懲戒ノ處分ヲ受ケタルモノハ宮内卿ヨリ警察官ニ通知シ將來ノ行儀ヲ監察セシム

第十八條 除族ノ處分ヲ受ケ情輕キ者悔改ノ事實アルトキハ五年ノ後上旨ニ由リ復族セシムルコトアルヘシ

除族情重ク親屬襲爵ヲ得サル者十年ノ後上旨ニ由リ親屬ニ襲爵ヲ命スルコトアルヘシ但本人ハ終身復族ヲ許サス

第十三款

大審院 裁判所職員考績條例

明治十七年十二月 司法省 院外(大審院) 院裁判所ニ達

大審院裁判所職員考績條例左ノ通相定候條此旨相達候事

大審院裁判所職員考績條例

第一條 考績ハ判事檢事以下職員ノ功過行能ヲ考覈シ司法卿ノ銓定ニ供スルモノトス

第二條 考績ノ法四善十最三殿ト爲ス其目左ノ如シ

- 一 操心公正ナルチ一善トス
- 一 制行廉潔ナルチ一善トス
- 一 學識博高ナルチ一善トス
- 一 職務勉勵ナルチ一善トス
- 以上四善
- 一 法理ニ精シ事體ニ達シ明斷嚴肅廳務整理シ所部ヲ獎勵シ兼テ人望アルナルチ院長所長ノ最ト爲ス
- 一 法令ヲ遵奉シ所部ヲ監視シ明敏勇毅能ク職務ヲ盡シ兼テ人望アルチ檢事長ノ最ト爲ス
- 一 聽訟聽敏與奪理ニ當リ判文申暢ナルチ民事掛判事ノ最ト爲ス
- 一 審理情ヲ盡シ裁決法ニ適シ判文申暢ナルチ刑事掛判事ノ最ト爲ス
- 一 糾問敏詳舉證明確判文申暢ナルチ豫審判事ノ最ト爲ス

- 一 搜查精密起訴嚴明其扶ケ奸ヲ懲シ法律ヲ保護シ公安ヲ維持スルヲ檢事ノ最ト爲ス
- 一 忠恕倦マズ懇篤勸解シ能ク治安ヲ保維セシムルヲ勸解判事ノ最ト爲ス
- 一 記録詳明文理通達簿冊整頓處務敏捷兼テ書算ヲ善クスルヲ書記ノ最ト爲ス
- 一 清白強幹書算ヲ善クシ出納ヲ謹ミ帳簿ヲ整ヘ勘查明確ナルヲ會計屬ノ最ト爲ス
- 一 供承解テス職掌關クルヲナキヲ附屬員ノ最ト爲ス
- 以上十最
- 一 愛憎情ニ任セ處斷法ニ違フヲ一殿トス
- 一 公ヲ忘レ私ニ徇ヒ職務廢闕アルヲ一殿トス
- 一 諂諛名ヲ求メ巧詐貪汚ナルヲ一殿トス
- 以上三殿

第三條 院長所長檢事長(始審廳ハ上席檢事)ハ各其廳及ヒ管轄廳ノ職員ヲ監視シ其功過行能ノ實ヲ精密調査シ左ノ雜形ニ照準シテ功過明細書ヲ作り毎年九月司法卿ニ上申ス可シ

大審院又ハ職員功過明細書
何裁判所

族籍

官氏名

年齢

一 奉職年月日 本年本月迄何年何月

一 赴任年月日 同上

一 現時爵位勳等俸給

但何年何月増俸

功ノ部

一 此部ニハ專ラ職務上ノ功績ニ係ル事件ヲ記ス即チ勤勉。年勞。事務練達。裁判允當。公訴嚴正。庶務整理。會計精確。ノ類ナリ

過ノ部

一 此部ニハ專ラ職務上ノ過愆ニ係ル事件ヲ記ス即チ怠慢。闕勤。諂諛。貪穢。事務延滞。裁判不法。起訴錯誤。庶務紛雜。會計無度。其他曾テ懲戒ヲ受ケタルノ類ナリ

行ノ部

一 此部ニハ專ラ品行ノ善惡ニ係ル事件ヲ記ス即チ性質ノ忠邪。制行ノ

○第一類○行政法○大審院裁判所職員考績條例

其否。交際ノ得失。活潑。慎重。健康。病患。驕奢。淫佚。其他人望ノ有無。親族ノ關係及ヒ負債重積。屢訴訟ヲ受クルノ類ナリ

能ノ部

一此部ニハ專ラ學識才藝ニ係ル事件ヲ記ス即チ法律。經濟。文學等諸般ノ學科ヲ修メ及ヒ其學位ヲ有シ又ハ才力。敏智。決斷。辯舌。書算ヲ善クシ。其他外國語ニ通シ。外國文ヲ綴ルノ類ナリ

備考ノ部

一此部ニハ前四部中ニ記載セサル事項ヲ記ス即チ本人ノ技量。民刑及ヒ檢察事務ノ適否。交際ノ模様。其他學業ノ教授。若クハ著述等ノ類ナリ

右注狀ノ通確實ナルニ依リ此段上申候也

大審院長又ハ何裁判所長

又ハ檢事長檢事

年月日

官

氏

職名

○第十四款 判事登用規則

明治十七年十一月第百貳號(官省院廳府縣)達

判事登用規則左ノ通相定候條此旨相達候事

判事登用規則

第一條 判事ニ登用スルハ法學士代理人及ヒ試驗ヲ行ヒ及第シタル者ニ限ルベシ

但外國ニ於テ法學士狀師ノ稱號ヲ受ケタル者ハ尙ホ試驗ヲ行ハズ
第二條 法學士代理人及ヒ試驗及第者ヲ登用スル時ハ先ツ始審裁判所ノ御用掛ヲ命ジ一年以上事務ヲ見習ハシメ判事定員ノ缺アルニ隨ヒ其本官ニ任スルモノトス

法學士ニシテ代言人タルモノハ二年以上其他ノ代言人ハ五年以上其業ヲ務メ學識經驗卓絶ナル者ハ判事定員ニ缺アル時直ニ其本官ニ登用スルコトアルベシ

御用掛服務一年以上ノ者ハ時宜ニ因リ檢事ニ登用スルコトアルベシ
第三條 左ニ掲グルル者ハ登用スルコトヲ得ス

- 一 丁年未滿ノ者
- 一 品行方正ナラサル者
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ルサル者
- 一 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシ者
- 一 重禁錮二年未滿及ヒ輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リ

○第一類○行政法○判事登用規則

- 一 シ日ヨリ五年ヲ經過セサル者
- 一 盜罪贓罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 貨幣偽造ノ罪印章文書偽造ノ罪及ヒ偽證証告ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 賭博犯ニ付懲罰一年以上ニ處セラレシ者
- 一 懲戒ニ依テ免官ト爲リタル者
- 第四條 試験ハ司法省ニ於テ隨時之ヲ舉行ス但其期日及ヒ試験出願等ノ手續ハ司法卿之ヲ定メ六ヶ月前ニ告示スベシ
- 第五條 司法卿ハ試験ヲ舉行スル毎ニ試験委員及ヒ委員ヲ命スヘシ
- 第六條 司法卿ハ試験科目ヲ定メ試験ニケ月前ニ之ヲ告示スベシ
- 第七條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二様トス但筆記試験ニ不合格ナル者ハ口述試験ヲ爲サズ
- 第八條 試験及第者ニハ試験委員連署ノ及第證書ヲ授與ス
- 第九條 左ニ掲クル者ハ試験及ヒ御用掛ノ例ヲ用ヒス補缺ノ爲メ直ニ判事ニ任スルコトアルベシ
 - 一 判事補ノ職ヲ奉シ五年以上恪勤シ學識經驗判事ノ資格ニ適スル者
 - 一 曾テ判事ノ職ヲ奉シ五年以上恪勤シ轉官シタル者

- 一 法學士代言人及ヒ試験及第者ニシテ判事ノ職ヲ奉シ轉官シ若クハ法學士ニシテ他ノ官廳ニ奉職ノ者
- 第十條 檢事ノ職ヲ奉シ五年以上恪勤シタル者ハ判事定員ニ缺アル時判事ニ轉任セシムルコトアルベシ

○第十五款 判事登用試験出願人心得

明治十八年一月司法省甲第二號告示

明治十七年太政官第百一號達ニ基キ判事登用ノ爲メ當省ニ於テ來ル八月一日ヨリ試験舉行候條志願ノ者ハ左ノ條項相心得來ル五月十五日マテニ履歷書相添へ願出ツヘシ但右日限後ハ願書ヲ受理セス

右告示候事 試験出願人心得

- 第一條 試験科目ハ試験ニケ月前之ヲ告示ス可シ
- 第二條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二様トス(但筆記試験ニ不合格ナル者ハ口述試験ヲ爲サス)
- 第三條 試験合格ノ者ニハ及第證書ヲ附與ス可シ
- 第四條 試験及第者ヲ登用スルニハ先ツ始審裁判所ノ御用掛ヲ命シ一年以上事務ヲ見習ハシメ判事定員ノ缺アルニ隨ヒ本官ニ任セラレヘシ

○第一類○行政法○判事登用試験出願人心得

(但時宜ニ因リ檢事ニ登用セラル、コアルベシ)

第五條 當期登用人員ハ三十名ヲ限リトス

第六條 登用人員ニ定限アルヲ以テ試験合格者ヲ悉ク登用スルコト能ハザル場合ハ合格者中ニ就キ之ヲ選用ス

第七條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ許サス

- 一 丁年未滿ノ者
 - 一 品行方正ナラサル者
 - 一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
 - 一 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシ者
 - 一 重禁錮一年未滿及ヒ輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經過セサル者
 - 一 盜罪贓罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
 - 一 貨幣偽造ノ罪印章文書偽造ノ罪及ヒ偽証誣告ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
 - 一 賭博犯ニ付懲罰一年以上ニ處セラレシ者
 - 一 懲戒ニ依テ免官ト爲リタル者
- 第八條 現ニ官廳ニ奉職スル者及ヒ徵兵現役ニ該ルベキ者ハ出願スルト

六ヲ得テ

第九條 法學士代言人ハ試験ヲ行ハス(但外國ニ於テ法學士狀師ノ稱號

ヲ受ケタル者ハ尙ホ試験ヲ行フベシ)

第十條 一タビ官廳ニ奉職シ免官ト爲リタル者ハ其辭令書ノ寫ヲ願書ニ

添ヘ差出スベシ

第十一條 試験願書式履歷書式

願書式

試験願書 料紙美濃紙

本籍 并ニ戶主嗣子又ハ二三男兄弟ノ別

身分 氏 名 年 齡

私儀御省本年甲第貳號告示ニ基キ試験相受ケ度此段奉願候也

年 月 日 現住所 氏 名 印

司法省 御 中

前書之通屬籍年齡等相違無之候也

年 月 日 本籍 戶長 某 印

○第一類○行政法○判事登用試験出願人心得

履歷書式

履歷書 料紙美濃紙

本籍

身分

氏

年 名 齡

一何年何月ヨリ何年何月マテ 府 縣 何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ 何學修業

一何年何月何々進退賞罰等ニ關スル一切ノ件

一御告示第七條各項ニ相觸レ候義ハ一切無之候

年 月 日

氏 名 印

前書之通相違無之候事

年 月 日

本籍

戶長

某

印

▲明治十八年五月司法省甲第四號告示

明治十七年太政官第百貳號達ニ基キ判事登用ノ爲メ當省ニ於テ來ル八月 一日ヨリ試驗舉行候ニ付テハ同達第六號試驗ノ科目左ノ如シ

日本刑法 日本治罪法 財產法 契約法 證據法

右告示事

○第十六款 府縣事務受渡規則

明治六年七月第百 五拾壹號(府縣ニ達

從前府縣分令廢置或ハ長官轉免等ノ際事務請渡ノ規則無之ヨリ往々諸事 錯亂シ施政上多少ノ障礙ヲ爲スモノ不少候ニ付別紙ノ通規則被相設候條 自今渾テ右ニ照準シ請渡候様平常注意可致此段相達候事

府縣事務受渡規則

第一章 廢府縣又ハ長官轉任免職等ノ節ハ奉職中ノ事務并取懸リノ事件 後來ノ見込ヲ詳記セル演說書ヲ作り先前ヨリ繼送ノ書并現今取扱ノ諸 簿冊等目錄ヲ添ヘ土地人民引渡新任舊官互ニ受渡ノ証書ヲ交付スヘキ 事

▲明治八年九月第百六十二號達但書左ノ如ク改正

但長官轉任免職ノ節ハ其次官ヘ引渡シ退テ新官赴任ノ上其次官ヨリ 更ニ新官ヘ可引渡事

第二章 管轄ノ一方分割合併ノ節モ右ニ準シ引渡ス可キ事

第三章 租税金穀何年ハ皆納何年ハ未納ノ譯并何年分ハ何々ノ帳簿大藏 省ヘ差出置勘定(既濟未濟)何年分何帳ハ既ニ差出何々帳ハ未タ差出サ ス等明了ニ演說書ニ記載スヘキ事

第四章 租税金穀上納既濟未濟ノ區別ヲ明ニシ別紙書式ニ倣ヒ仕譯書ヲ

○第一類○行政法○府縣事務受渡規則

以引渡ス可キ事

第五章 出納課ニ屬スル金穀勘定帳ノ類大藏省検査既済未済其外年賦返納等ノ譯詳細演說書ニ記載ス可キ事

第六章 本年ノ出納ニ屬スル勘定ハ大藏省ヨリ請取元高及ヒ口々仕拂高別紙書式ニ倣ヒ仕譯書ヲ以引渡スヘキ事

第七章 (府縣)應限取扱ノ金穀(譬ハ馬車人力車等増税ノ増分ヲ以テ道路橋梁修繕費等ニ宛テ候類又ハ縣廳造立費二分二同修繕費管内公帖差出賃等民費課出ノ類ヲモ云)モ總テ前章ニ照準シ元拂ヲ明ニシ仕譯書ヲ添ヘ引渡スヘキ事

第八章 聽訟斷獄未決ノ分ハ一件毎ニ是迄吟味ノ手續ヲ詳記シ司法省ヘ窺中ノ分ハ右寫書ヲ以テ引渡スヘシ尤裁判所アル縣ハ此例ニアラス

第九章 溝河ヲ疏通シ堤防ヲ修築シ新道ヲ開キ工藝ヲ興シ勸業ノ方法ヲ設ケル等ノ類許可ヲ得又ハ手限リ施行シ未タ竣功ニ至ラサルモノハ最前稟議ノ旨趣利害得失ノ計算費用ノ出納及ヒ將來踐行ノ考案ヲ演說書ニ詳記ス可キ事

第十章 受渡相濟次第其段新任ヨリ正院并大藏省ヘ届出ヘキ事
第十一章 先官ノ成蹟國家ニ鴻益アルモノハ勿論引渡條件ノ内其處分成

規例格ニ乖戾スルカ或ハ後來ノ弊害トナリ引受難キ件々ハ其事情ヲ詳ニシ主務ノ省ヘ稟議ス可キ事

第十二章 租税出納共現在金穀ノ仕譯書ト右ニ關スル諸帳簿ノ結末トテ照合シ差違ナキヲ詳知シテ後請取ヘキ事
但受取済届ノ節米金仕譯書寫大藏省ヘ差出スヘキ事

第十三章 置金并堤防營繕等ノ費用臨時請取金其外請取立金(取立濟ニテ未タ大藏省ヘ納サル分ヲ云)等ハ爲替方ヨリ取置候不動産ヲ記載スル證書並兼テ爲取替候約定證書又ハ其簿記計算ノ方法爲替納拂ノ順序等ニ至ル迄無遺漏請渡スヘキ事

第十四章 右ノ規則ニ隨ヒ一旦受渡證書交付ノ上ハ總テ新官引受調理スヘキ事
(帳簿目錄並ニ書目畧ス)

第十七款 府縣往復規程

府縣東京出帳所ノ儀來ル二月一日ヨリ相廢候ニ付諸事左ノ府縣往復規程ニ照準可取計此旨相達候事
府縣往復規程

○第一類(一)行政法○府縣往復規程

第一條 府縣ヨリ進達スル諸願伺届等ハ總テ郵便ヲ以直チニ院省へ送達シ院省ノ指令及ヒ達等ノ文書モ亦郵便ニ附スヘキ事
第二條 府縣ヨリ當府下へ寄留ノ華士族平民ノ身分取扱ノ儀ハ總テ東京府ニ於テ管掌スヘキ事

但院省ニテ華士族平民呼出ノ節ハ直ニ本人へ相達スヘキ事

第三條 府縣ヨリ當府下へ寄留ノ者へ家祿奉還金公債證書等交付ノ如キハ内務省ヲ經由シ東京府ニ於テ下ケ渡スヘキ事

第四條 府縣へ諸布告布達等ノ類ハ各其院省ヨリ郵送スヘキ事

第五條 (明治十年二月第十八號達改正) 處刑濟及脱籍ノ者ハ警視局ヨリ從前ノ手續以テ送還スヘキ事

第六條 (明治八年三月二十二號達改正) 府縣へ可下渡金穀是迄郵送ヲ以テ取扱來候分ハ總テ内務省ヨリ其府縣へ郵送方可取扱事

但府縣ヨリ租稅其他上納ノ金穀ハ直ニ其主務ノ省へ郵送スヘキ事

第七條 家祿奉還公債證書モ亦前條ノ手續タルヘキ事

第八條 (明治八年四月第六十號達改正) 院省ヨリ府縣へ郵送セシ諸公文其外到着ノ上速ニ領受ノ證書ヲ其院省へ郵致スヘシ府縣ヨリ院省へ郵送セシモノモ亦同様可取扱事

第九條 書面ニテ辨理シ難キ事件アリテ府縣主務ノ判任官出京セシ時ハ着京歸縣ニ遲滞ナク内務省へ可届出事

第十條 府縣ヨリ郵達スル文書ノ上包ニハ其省名ヲ書記シ若シ其事機密ニ涉ル者ハ長官又ハ次官ノ名ヲ書シ傍ラニ親展等ノ文字ヲ記スヘキ事

第十一條 府縣ヨリ郵達セシ書類ニ若シ主管違ヒノ申牒等アル時ハ成丈ケ送還ノ手數ヲ省キ直ニ其主務ノ省へ回送スヘキ事

▲(明治八年四月第六拾號左ノ但書追加)

但名宛違ヒノ申牒へ指令スル時ハ添書ヲ以テ其旨可申達事

第十二條 院省ニ於テ若シ指令淹滞等ノ事アル時ハ直ニ郵便ヲ以其主務ノ長次官へ督促スヘキ事

▲(明治八年四月第六拾號達ヲ以テ第十二條以下追加)

第十三條 第九條ノ事件ニ付府縣判任官出京ノ節其長官ヨリ何々事件ニ付何ノ誰へ出京ヲ命シ候旨主務ノ院省へ届出有之分ハ其事ニ屬スル指令及ヒ金額共直ニ其者へ下渡シ候儀モ可有之事

第十四條 第六條ノ金穀ハ主務ノ省寮ニ於テ内務省ノ假證書ヲ以テ交附シ追テ其府縣長官押印ノ證書ト交換スヘシ
但貸下金穀納受ノ儀ハ從前成規ノ通りタルヘシ

○第一類○行政法○府縣往復規程

第十五條 前條ノ金穀内務省ヨリ其府縣へ郵送到達ノ上ハ從前書式ノ通其主務長官宛名ノ證書同省へ可差出事

第十八款 歲入出豫算條規

歲入出豫算條規左ノ通相定來ル十九年度ヨリ施行候條此旨相達候事
明治第十八年三月第十壹號(官省院府縣)達

歲入出豫算條規

第一條 各年度ニ於テ執行スル所ノ一切ノ收入支出ハ本條規ニ據リ毎年歲計豫算書ヲ以テ之ヲ裁定ス

第二條 各廳長官ハ每年其所屬各部局若クハ郡區ノ細豫算書ヲ徵收シ之ニ基キ款項目節ニ分チ其廳ノ歲計豫算書ヲ編製シ所屬各部局若クハ郡區ノ細豫算書ヲ添付シ前年度六月三十日マテニ其廳ヲ發シ之ヲ大藏省へ送付スヘシ

第三條 大藏卿ハ各廳ノ歲計豫算書ヲ檢按シ歲入出ヲ對照調理シ款項ニ區分シ國庫總体ノ歲計豫算書ヲ編製シ各廳長官ノ歲計豫算書ヲ添付シ前年度十二月二十日迄ニ之ヲ太政官へ進達スヘシ

第四條 太政官ハ大藏卿進達ノ歲計豫算書ヲ審議シ前年度三月五日マテニ其決定ヲ達スヘシ

第五條 作業ヲ主管スル所ノ各廳ハ其損益ヲ証明スル爲メ各作業場ノ收支譯書ヲ編製シ之ヲ其廳ノ歲計豫算書ニ添付シ大藏省へ送付スヘシ

第六條 歲入ハ概ネ左ノ區別ニ基キ之ヲ豫算スヘシ

第一部ノ歲入中財産ノ高若クハ事業ノ免許ニ課スルモノハ其物件前々年度末ノ現數ヲ標準トス

第二部ノ歲入中輸出入品製造品賣買高若クハ人民ノ行爲ニ賦課スルモノ及第二部ノ歲入ハ前々年度以前三ヶ年度實收ノ平均額ヲ標準トス

第一部及第二部ノ歲入ニシテ物品ヲ以テ徵收スルモノハ前々年度以前三ヶ年度實收ノ物品數及其代價ノ平均ヲ標準トス

第七條 歲出ハ率不左ノ區別ニ基キ之ヲ豫算スヘシ

第一部ノ歲出中國償還ノ金額ハ(定期アルモノヲ除ク)財政ノ都合ニ依リ其利子ハ定規ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第一部第三部及第四部ノ歲出中官吏其他ニ支給スヘキモノニシテ豫期スルヲ得ヘキモノハ前年度四月一日ノ現人員ヲ標準トス

第一部第三部及第四部ノ歲出中官吏其他ニ支給スヘキモノ若クハ物件ニ對シ支出スルモノニシテ豫期スルヲ得サルモノハ前々年度以前三ヶ年度實費ノ平均額ヲ標準トス

第一類 行政法 歲入出豫算條規

第三部ノ歳出中軍隊軍艦ニ屬スル軍人ノ支給ニ係ルモノハ定員ヲ標準トス

第三部及第四部ノ歳出中工事若クハ物件ニ對シテ支出スルモノニシテ豫期スルヲ得ヘキモノハ仕譯帳ニ基キ之カ費額ヲ豫定シ其數年ニ涉ルモノハ總費額ヲ各年度ニ分賦シテ其年度ノ豫算ヲ爲スベシ

第八條 各廳ハ歳入豫算ニ對シ毎月増減ノ有無ヲ調査シ其部局若クハ郡區ノ報告書ヲ添へ翌月十五日迄ニ其廳ヲ發シ之ヲ大藏省へ報告スベシ但増減アルトキハ其事由ヲ詳悉スベシ

第九條 各廳長官ハ豫算決定後臨時ニ増額又ハ別途支出ヲ請求スルヲ得ス但臨時ノ事變等ニ依リ止ムヲ得サルモノハ此限ニアラス

第十條 各廳長官ハ前書但書ニ因リ増額若クハ別途支出ヲ要スルモノアルトキハ其事由ヲ詳具シ明細ナル計算書ヲ添へ大藏省ヲ經由シ太政官ノ特裁ヲ請フベシ

第十一條 歳出入各款ノ金額ハ互ニ流用スルヲ得ス一款中各項ノ金額ハ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ特裁ヲ請ヒ一項中各目ノ金額ハ大藏省ノ承認ヲ受ケ之ヲ流用スルヲ得

第十二條 太政官ニ於テ前條臨時増額別途支出若クハ各項ノ金額流用ヲ

許可シタルトキハ其旨ヲ大藏省及ヒ會計検査院ニ達シ大藏省ニ於テ各目ノ金額流用ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スベシ

第十三條 各廳長官ハ増額別途支出若クハ各項金額流用ノ許可ヲ得サル前又ハ各目金額流用ノ承認ヲ得サル前ニ豫算外ノ支出ニ係ル新規ノ契約ヲ爲スヲ得ズ

第十四條 各廳長官ハ收入ヲ以テ既定ノ歳出豫算ヲ増加スルヲ得ズ

第十五條 大藏卿ハ各廳豫算外ノ支拂請求ヲ承認スルヲ得ズ

第十六條 歳出豫算中國庫豫備金ノ一款ヲ置キ大藏卿之ヲ主管ス

第十七條 國庫豫備金ヲ分テ第一豫備第二豫備ノ二種トス其第一豫備ハ太政官ノ裁定ヲ經テ支出シ第二豫備ハ支出ノ後太政官へ開申スルモノトス

第一豫備ハ臨時非常ニ係ル特別ノ用途ニ充ルモノトス

第二豫備ハ年金恩給過誤納下戻等ノ豫算額ニ不足ヲ生スルトキ之ガ補充ニ供スルモノトス

第十八條 既定ノ豫算ニ對シ國庫豫備金ノ増額ヲナサントスルトキハ大藏卿ハ特ニ其財源ヲ定メテ太政官ノ裁定ヲ請フベシ

第十九條 歳入ノ額豫算ニ及ハサルカ爲メ歳入ヲ以テ歳出ヲ償フ能ハサ

○第一類○行政法○歳入出豫算條規

ル場合ニ於テハ大藏卿ハ臨時其補充ノ方法ヲ按シテ太政官ノ裁定ヲ請フベシ

第二十條 本條規中豫算書報告書ノ様式ハ大藏卿ノ定ムル所ニ據ルモノトス

第二十一條 現行法規中此條規ニ牴觸スル條項ハ廢止ス

○第十九款 歲入出豫算 明治十八年三月大藏 編製法區分 省第十二號(府縣)達

歲入出豫算條規第六條第七條編製法區分之儀左ノ通心得ベシ

一第六條第一項ニ據リ豫算スヘキ者ハ動産不動産ニ課スル資本税及諸營業ニ課スル租税ノ類トス

一同條第二項ニ據リ豫算スヘキ者ハ諸印紙稅諸商品及賣買所得ノ高ニ課スル租税ノ類及諸官廳ノ收入トナス

一第七條第二項ニ據リ豫算スヘキ者ハ一定ノ額ヲ支給スヘキ者ニシテ官吏常備人等ノ恩給諸祿俸給手當ノ類及學資補助金等トナス

一同條第三項ニ據リ豫算スヘキ者ハ官吏備人等ニ支給スル者ニシテ其支出額ヲ豫定スルヲ得ス隨時其額ヲ定ムル者即チ旅費臨時手當惠與金臨

時備給ノ類物件ニ對シテ隨時什拂ヲナス者即チ物品代價普通ノ應費平常ノ營繕費道路費等トナス

一同條第二項ニ基キ第三項ヲ酌量シテ豫算スヘキ者ハ人員ト相伴フ物品買入代ニシテ衣食等ノ費用トナス

一同條第五項ニ據リ豫算スベキ者ハ土木費臨時建築費船艦購買費ノ類トス其他器械物品ノ購買費ニシテ異常ノ巨額ヲ請求セント欲スル場合ハ本項ニ據リテ豫算スベシ

一歲出中定法例規ヲ以テ支出ノ額ヲ定ムル者ハ其定額ヲ掲ケ若シハ其算法ニ據ル者トス 右相達候事

○第二十款 歲入出科目條規 明治十八年三月第十 二號(官省院府縣)達

歲入出科目條規左ノ通相定來ル十九年度ヨリ施行候條此旨相達候事

歲入出科目條規

第一條 歲入出科目ハ之ヲ分ツテ款項目節ノ四段トシ款ヲ分ツテ項ヲ置キ項ヲ分ツテ目ヲ置キ目ヲ分ツテ節ヲ置ク

第二條 歲入出ノ性質若クハ主管ヲ異ニシ獨立ヲ要スルモノヲ款トシ款

○第一類○行政法○歲入出科目條規

中其種類ヲ異ニスルモノヲ項トシ項中ノ種類ヲ細別スルモノヲ目トシ目ノ成立ヲ明ニスルモノヲ節トス

第三條 款若クハ項ヲ廢置變換セントスルトキハ大藏卿ノ上申ニ據リ太政官ニ於テ之ヲ定ム

第四條 目及節ノ廢置變換ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ但各廳ハ目節ノ廢置變換ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ之ヲ大藏卿ヘ請求スベシ

第五條 各廳ニ於テ臨時支出ノ特許ヲ得タルトキ科目ノ新設ヲ要スルコトアレハ大藏卿之ヲ定メ項以上ハ太政官ヘ上申スベシ

第六條 現行會計法規中本條規ニ牴觸スル條項ハ廢止ス

▲明治十八年三月第拾三號(官省院廳府縣)達

歲入出科目表別冊之通相達候條此旨相達候事

但作業費ニ係ル科目表ノ儀ハ追テ相達候マテ從前ノ通相心得從來ノ大科目中科目小科目細科目ヲ改メ款項目節ト稱スベシ
(別冊容ス)

○第二十一款 國庫出納條規

國庫出納條規別冊之通相定候條此旨相達候事

明治十六年三月第拾五號(官省院廳府縣)達

國庫出納條規

第一條 國庫ハ大藏卿所管ノ金錢ヲ藏置スル處トス

第二條 常用準備ノ出納ハ大藏卿收支ノ傳票ヲ發シ出納局長ヲシテ執行セシム

第三條 大藏卿ノ傳票ハ番號ヲ附シ其號番ハ各廳會計上通シテ用ユルモノトス

第四條 大藏卿ハ便宜ニ依リ各地ニ出納局出張所又ハ大藏省爲換方ヲ設置シ金錢ノ出納ヲ爲サシム其方法ハ大藏卿之レヲ定ム

第五條 收入金ノ受取證書ハ其納主ヘ對シ出納局長之レヲ發シ支出金ノ受取證書ハ出納局長ヘ宛テ其受取主ヨリ差出サシメ以テ收支ヲ了シタル証トス

第六條 收入スヘキ現金ハ出納局及全局出張所又ハ大藏省爲換方ニ於テ預リ納主ヘ預證書ヲ交附シ納主ニハ該預證書ヲ以テ納附ノ手續ヲナサシム

第七條 大藏卿ハ國庫金錢管主ノ方法及ヒ之ヲ各廳ニ委託スル方法ヲ定ム

第八條 大藏卿ハ出納局長ニ命シ常ニ金錢ノ種類ヲ區別シ置キ一週間毎

○第一類 ○行政法 ○國庫出納條規

ニ現在高ヲ太政官へ報告スヘシ

第九條 大藏卿ハ毎月末若干日ヲ剩シ收支ノ傳票ヲ停止スルヲ得

○第廿二款

勸業委員
撰舉方法

明治十六年九月農商務
省第十壹號(府縣へ)達

本年(五月)第十三號布達第五條勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評定ニ任スヘキノ處該會ノ設置無之地方ニ於テハ其手續ヲナスヘキ爲メ之ニ代フルニ區町村從來慣行ノ相談會等ニ於テ評定スルモ不苦爲心得此旨相達候事

(參看)明治十六年五月第十三號布達抄出

第五條 勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受クヘシ

○第廿三款

戸長賜金及賞
與法

明治十八年四月內務省
甲第十壹號(府縣へ)達

一戸長滿五年以上奉職十一年未滿ニシテ退官セシキハ現俸給三ヶ月分ヲ給シ其滿十一年以上ニシテ同上ノ者ニハ現俸給四ヶ月分ヲ給ス但自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ

懲戒處分若シハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス

一戸長在職中死亡ノ者ハ現俸給三ヶ月分ヲ給ス

右相達候事

▲明治十一年十二月第五拾三號(府縣へ)達

戸長職務ニ勉勵スル者ハ一ヶ月給料ノ高ニ越ヘサル金額ヲ以テ賞賜スルヲ得但シ其費用ハ地方稅ヨリ支出スヘキモノトス此旨相達候事

(參看)明治十七年五月內務省乙第廿七號(府縣へ)達

本年第十三號布告ヲ以テ地方稅規則第三條第十五項改正相成候處戸長以下ニ屬スル諸給與ハ潭テ地方稅ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

(參看)明治十七年五月第拾三號布告

明治十二年(四月)第拾六號布告地方稅規則第三條第十五項左之通改正
シ十七年度ヨリ施行ス

一戸長以下給料旅費

右奉 勅旨布告候事

○第一類○行政法○戸長賜金及賞與法

○第廿四款 學校長及教員 懲戒法

明治十五年五月 文部省號外(府縣)達

官吏懲戒例并ニ行政官吏服務紀律等ノ儀ハ府縣立町村立學校長教員及府縣學校書記ヘモ適用スヘキコト勿論ニ候條此旨相達候事

(參看)明治九年四月第三十四號達官吏懲戒例ハ前編第一類第三十章第拾壹款。明治十五年七月第四十四號達行政官吏服務紀律ハ同第壹款。明治十五年七月廿七日無號達官吏服務紀律說明ハ同第二款ニ掲出ス

○第廿五款 看守懲罰例

明治十六年四月內務省乙第拾七號(警視廳府縣集治監)達

看守懲罰ノ儀ハ自今巡查懲罰例ニ準據スヘシ此旨相達候事

(參看)明治九年八月內務省乙第九十二號達巡查懲罰例ハ前編第一類第三十章第十二款ニ掲出ス

○第廿六款 禁厭祈禳

明治十五年七月內務省乙第四拾貳号(府縣)達

別紙戊第三號之通神道副總裁神佛各管長ヘ相達候條今後違背之輩有之候半ハ直ニ差止置委詳當省ヘ具狀可致此旨相達候事

(別紙)

內務省戊第三號 (明治十五年七月十日) 神道副總裁、神佛各管長

禁厭祈禳ノ儀ニ付七年(六月)教部省乙第三拾三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥之有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ限リ其望ミニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此段相達候事

○第廿七款 托鉢解禁及其心得

明治十四年八月內務省甲第八號布達

明治五年(十一月)教部省第廿五號達僧侶托鉢禁止ノ儀相廢候條此旨相達候事

但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帯スヘシ

▲明治十四年八月內務省乙第三拾八號(府縣)達

今般戊第二號ヲ以テ佛道各管長ヘ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢差止願末詳細取調當省ヘ可申出此旨相達候事

(別紙)

戊第貳號

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各

○第一類○行政法○禁厭祈禳○托鉢解禁及其心得

宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取
締規約取調可伺出此旨相達候事

内務卿松方正義代理

明治十四年八月十五日

内務大輔 土方久元

托鉢免許方并托鉢者心得

一 托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在
ノ地方廳へ通知シ東京ハ警視廳へモ通知スベシ

一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同十一時迄ヲ限リトス

但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限

一 托鉢者ハ如法ノ行装ニテ免許證ヲ携帯シ行乞スルヲ常トス施者ノ請ア
ルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ
意ニ任セ取テ餘物ヲ乞フテ許サス

一 托鉢者ハ一列三人以上拾人以上タルベシ且公衆來往ノ便ヲ妨クベカラ
ス

一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

標牌雛形 木製 縦六寸横二寸

第何號	表 ○ 何宗派 管長印	裏	何府縣國郡區町村 何寺住職徒弟 教導職名試補 何 年月日 某 年月日生
	托鉢免許之証		

燒印

○第廿八款 北海道轉籍移住手續 明治十六年四月
第拾號布達

北海道へ轉籍移住者手續別紙ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治十五年(五月)第拾號同年(七月)第拾五號布達及同七年(七月)舊開

拓使第二號布達第一第二三條ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

右布達候事

北海道轉籍移住者手續

第一條 北海道へ轉籍移住スル者ニシテ資力ナキ者ニ限リ此手續ニ依テ
保護スルモノトス

○第一類○行政法○北海道轉籍移住手續

第二條 渡航ノ保護ヲ出願スルモノハ其願書ニ移住スヘキ國郡名(町村名)ノ詳カナルモノハ之ヲ記入スヘシ)並產業ヲ營マントスルノ目的ヲ詳記シ猶左ノ各項ヲ附屬書トナシ原籍戶長及ヒ郡區長ヲ經由シテ管轄廳へ出願スヘシ

一 戶籍寫

二 從來ノ營業及家産ノ程度

三 荷物ノ噸數

但携帶スヘキ農具及家具品類ノ大概ヲモ記載スヘシ

第三條 郡區長ハ轉籍移住出願者へ移民心得ノ旨趣ヲ懇篤ニ示諭シ尙ホ願書ノ事情目的ノ當否ヲ審査シ意見ヲ具シテ之ヲ府知事若シハ縣令ニ開申スヘシ府知事縣令ハ之ヲ事實適當ノモノト認ルトキハ其旨ヲ副書シ農商務省へ進達スヘシ

第四條 渡航ノ保護ハ左ノ制限ニ依ル

一 三菱會社共同運輸會社運漕社ノ船舶開帆ノ港ヨリ乘船ヲ許可スベシ但到着スヘキ港ハ函館、江刺、壽都、小樽、室蘭、浦河、幌泉、大津、岩内、増毛、宗谷、根室、厚岸、釧路、濱中、網走、擇捉、(單冠灣)ノ十七港灣トス

二 渡航票ハ函館港迄ノモノト移住地最近ノ港灣迄ノモノトノ二葉ヲ下

付スベシ故ニ其出發港ヨリ移住地最近ノ港灣迄直航ノ船便アルトキ

ハ二葉ノ渡航票ヲ併セ乘船切符ト引換乘船スヘシ直航ノ船便ナキト

キハ先ツ函館港迄ノ渡航票ヲ乘船切符ト引換同港ニ着シ函館縣廳へ

殘一葉ノ渡航票ヲ持參シ更ニ渡航ノ儀ヲ出願スヘシ

三 函館着港ノ上船都合ニ依リ陸行セントスルモノハ函館縣廳へ出願ス

ヘシ但陸行ヲ許可スルトキハ持參スル所ノ渡航票ニ換ヘテ其運賃ニ

當ル金額ヲ支給スヘシ

四 陸行ノ場合ニハ其旨ヲ函館縣ヨリ沿道ノ縣廳及ヒ郡區役所警察署へ

通達スヘシ沿道ノ郡區役所警察署ニテハ宿泊其他注意ヲ加ヘ時宜キ

斟酌シ及フ丈ケ保護ヲナスヘシ但別途費用ヲ給セス

五 手荷物ノ外一戸ニ付五十才以内ノ荷物運賃ヲ支給スヘシ

第五條 制限外ノ荷物ハ勿論發着ノ船賃船待滞在中ノ費用ハ總テ自辨ス

ヘシ

第六條 渡航願ノ許可指令並渡航票ハ管轄廳ヲ經テ下付スヘシ又事宜ニ

依リ郡區役所ヲ經テ下付スルコトアルヘシ

但郡區役所ヨリ願人ニ下付シタルトキハ渡濟ノ上其郡區長ヨリ府知

○第一類○行政法○北海道轉籍移住手續

事縣令ニ其旨ヲ開申スヘシ

第七條 渡航者ハ下付ノ渡航票ヲ以テ三菱會社共同運輸會社運漕社瀛船ノ開帆スル各港ノ内便宜ノ場所ニ至リ乘船切符ト引換乘船スヘシ渡航票ハ乘船切符ト引換タル後ハ總テ瀛船會社ノ規則ニ從フモノトス若シ引換後乘船時間ヲ過キ乘後レ又ハ事故アリテ乘船ヲ止メタルトキハ右會社定ムル處ノ時間内ニ再ヒ乘船切符ト渡航票ト引換ノ手續ヲナスヘシ右切符引換ニツキ該會社ニ對スル償金ハ自辨スヘキモノトス渡航中不得止事故アリテ上陸シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其地郡區長(郡區役所アラサル地ニテハ戶長)ノ公認ヲ請ケ其趣キテ原籍郡區長府知事縣令ヲ經由シ農商務省ヘ届出且其際渡航票面ノ金額ヲ農商務省ヘ辨償スヘシ

但急劇ナル病難ニ罹リ乘船ヲ止メ又ハ乘後レ若クハ航海中上陸スル場合ニ於テモ總テ此手續ヲ爲スヘシ尤モ該地醫師ノ診察書ト郡區戶長ノ公認ニ依テハ費用ノ辨償ハ特別處分スルコトアルヘシ

第八條 渡航者許可ヲ得タル後事故アリテ原籍地若クハ乘船スヘキ港ニ於テ滞留三十日ヲ超ルトキハ其事由ヲ詳記シ其地ノ郡區長(郡區長アラサル地ニテハ戶長)ノ公認書ヲ副(農商務省ヘ届出ツヘシ)猶ホ滞留

百六十日ヲ過クルトキハ本人ヨリ直チニ渡航票ヲ農商務省ニ返付シ其旨原籍郡區長ヲ經テ管轄廳ヘ届出ツヘシ

第九條 渡航者其乘船スヘキ港ヘ著シタルトキハ其地ノ郡區役所(郡區役所アラサル地ハ戶長役場)ニ其旨ヲ届出ツヘシ此届出ヲ受ケタル郡區役所戶長役場ニテハ注意ヲ加ヘ乘船ニ關シ及フ丈ケノ保護ヲ加フヘシ但別途費用ヲ給セス

第十條 函館港ヨリ更ニ渡航ヲナストキハ函館縣廳ニテ渡航者ノ願ヲ審查ノ上許可スルモノトス

第十一條 瀛船會社ハ渡航者ヨリ受收スル處ノ渡航票ヲ以テ金額受取方農商務省ヘ申出ヘシ函館港ヨリ乘船スルモノハ函館縣廳ヘ申出ヘシ

第十二條 第四條第一項ニ記載スル所ノ港灣ノ内移住地最近ノ港灣ヨリ移住地ニ到ル距離三里以上ニ渉ルモノハ滿三歲以上ノ人員ニ應シ每一里一人ニ付金五錢ノ手當ヲ給與ス但滿三歲未滿ノ幼兒及ヒ距離三里未滿ノモノハ給與ノ限ニ在ラス

第十三條 移住地到着ノ上他ノ雇入稼人ノ類ニ非スシテ自ラ營業ヲナス者ハ一戶ニ付假家作料金拾圓及營業器具代金八圓五拾錢特ニ農業者ハ一種物代金壹圓五拾錢宛ヲ給與スヘシ

○第一類○行政法○北海道轉籍移住手續

第十四條 保護ヲ受ケ移住シタル者其移住後滿五ヶ年以内ニ北海道テ去
リ他ニ轉籍又ハ寄留スルトキハ既ニ保護支給シタル金額ハ戶主若クハ
本人ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

(契)

噸 數	票 證 之 許 允 航 渡 號 番					族 籍	氏 名	年 齡
	何 港	自 何 港	許 之 證 票	允 航 渡	號 番			

一表面記名ノ人員運賃及ヒ荷物遞送費ハ渡航人ヲ乗船セ
シメタル瀛船會社ヨリ農商務省へ受取方申出ヘシ此證
票引換ニ拂渡スヘシ

但函館港ヨリ更ニ乗船ノ分ハ函館縣ニ於テ拂渡スヘシ
一此證票ハ三菱會社共同運輸會社運漕社船ノ内各自ノ乘
船スヘキ船ノ扱所へ持參シ乗船切符ト引換乘船スヘシ
一此證票ヲ以乗船切符ト引換タル後ハ總テ瀛船會社ノ規
則ニ從フヘシ若シ引換タル後乗船時間ニ乘後レ或ハ自
己ノ事故ニ因リ乗船ヲ止メ會社制限時間内ニ渡航票ト
引換戻シノ事ヲナスノ場合ニハ會社ノ規則ニ依リ辨償
スヘキ金額ハ本人ヨリ辨償セシムヘシ
一此證票ハ表書記名人ニ限り効アルモノトス
一此證票ヲ失ヒシトキハ表面ノ番號ヲ記シ速ニ農商務省
へ届出ヘシ

右ノ條件遵守スヘキ事

明治 年 月 日

農 務 省
主 任 官 姓 名 印

○第一類○行政法○北海道轉籍移任手續

▲明治十六年四月廿五日農商務省號外諭達

北海道へ移住シテ就産セント企ツルモノハ左ノ事情ヲ斟酌折衷スヘキハ
肝要ナリトス

一北海道開拓の舉に就てハ夙に開拓使に於て寒暖地質等の調査をさせし
に人民の移住にハ甚適良にして衣食住の需用とホすに闕るものなき大
賦の好土地あるは往々雇外國人の調査せる報文にも詳らかかり而して
其海産に富むの地たるハ人口に膾炙せるものにして實地も亦然り然れ
ども海産の事たる其漁場所あるものに限りありて北見千島二國を除く
の外は業に己に海濱の漁場所殆むど餘地なきに至るか如しと雖ども陸
地開墾の進歩に伴ふて漁業も亦著しく盛大あるへきは自然の勢あり
又開墾に適するの曠野多く永久就産の基を立つべき良境あるハ是又今
更に辨るるを俟たず數千年來開闢の功を盡し僅に殘存するの原野を見
るか如き内地の比にあらす渺々たる曠野ハ幾百萬町歩の開墾ハもあし
得べくして寔に算測の及ハざるものハ如し然れども地味の稍宜しき場
所ハ多くの密林あるを以て目下の狀勢にてハ無情にも其樹木を伐採し
て開墾地とホさるを得されハ愛林の情ハ暫らく擱くも隨分開墾にハ
骨の折るる事と識るへし尤場所によりてハ恰も良き平野にして地味の

宜しき箇所もあれども是又ハま笹或ハ雜草の盤根結ほれて壯牛の數頭
牽に非らされハ新墾し能ハざるの地多し就中谷地濕地多けれハ是等ハ
適宜ある排水法を施したる上からでハ開墾降手の及ハざるもの多し大
体如斯あると以て新墾の容易からざるは豫期すへき事あり
二彼地の寒氣旺盛なるに内地人の毎に憂ふる處あれども敢て寒氣の強き
を恐るるを要せずと云實地經歷者の言に依れハ寒氣の爲に障りなきを
必ず期すへからざるも素より一時の事に過すして大に身体を害せらる
ハ程の障りあるを聞かず却て暖地に育ちしもの移住の後漸次健康を覺
ゆるとの説は聞を得たり獨り本邦のみ然るに非らず北亞米利加合衆國
の如きは最も寒暑の酷烈あると聞ゆる中に就き稍我北海道と北緯の度
を同ふするニユーハンブッシュヤイル州マサチユセツ州等にして其寒度
は我に増す事一層の嚴ありと聞ゆれども其開墾の月に年に旺んあるは
世の人の識る所の如し然りと雖ども開墾あり漁場所の稼かり身體強壯
にして忍耐方あるものにあらずんは其目的を達し能はざるは勿論にし
て殊に漁場所の稼は男子三十年乃至三十四五年以内の壯丁に非らされ
ハ實用に適せざるものと云斯の如き事情をば採め了得すへき事肝要な
りとす

○第一類○行政法○北海道轉耕移住手續

三開墾を以て目途を定めずれば移住者に必用あるは少くとも移住後一ケ年乃至二ケ年位の食料を支ふべきの資金をくれば實地就業の素志を遂げ難かるべし何と云へば當初より多くの土地を耕耘し能はざるは理勢の免かれざるものにして且永久基礎の經營に準備をくれば非されはあり

四移住者は成るべく一村落をもあつべき程の人を團結して渡航するを必用とす其故は未だ人煙稀少隨て運輸甚不便理あるの地をれば需用品の購入に農産物の賣捌き共に其物品の多額にあらされは商人も入込せず且前にも陳る如く密林巨木を伐除きて開墾するにも多人數の協力を要し又彼地にては牛馬を野飼にするの慣習をれば之れが植物を荒らすを防ぎ猛獸の妨害を除く等有形の事物にして人衆の團結を要する斯の如きのみならず猶且無形の事物に就て人煙稠ければ異郷の憂さをも忘れ同郷人多ければ徳義上よりも廉耻上よりも俱に事業を助くるもの多ければあり

五移住者の團結中には大工も鍛冶も屋根屋も開業醫(其他諸の職業者あるも素より便あり)等も結合するは尤も便理ありとす畢竟無人の境に一村落をあすの備はれはあり

六移住すべき地を擇むは移住者の最大緊要事件をば多人數を團結して

移住せんとするもの其内より能く人を擇みて先以て彼地に渡航せしめ縣廳に就き移住地の指示を能く了したる上猶實地に就き將來に得益あるべきの地を擇むべし

七移住すべき地を擇むには輕々しく一度の看過にて俄に定むべからず能々官と多く民と多く彼地の先覺者に就き實地の事を諮問し地味の厚薄新墾の難易等は勿論運輸の便否山川の位地氣候の善惡等の事に篤く注意すべし彼地は内地との未だ異なるの情態ありて場所により得失の相去る甚だ遠きもの多ければあり飲用水の事にも能々注意すべし

八彼地の元來綿類の産出なき地をれば需用衣服類夜具類は勿論譬へ不用と見做すへき古衣にても持合せたるもの成べく荷物の際ひだなりとも扱み持参すれば彼地必用防寒の爲め又は後日經濟の爲め得益多かるべし

九新墾の地に用ふべき農具の成丈け丈夫なるを好とす尤持合のもの或は手慣たるものを持参するは其意に任すべし然れども新に用意するもの其形ちの優しきもの或は其質の脆弱ある品柄等を求めて渡航せんよりの寧ろ彼地にて實地に適するものを購ひて用ゆる方實際の用に適すべし農具の中には根倒しに用ふべき大鋸及斧山刃等は必らず入用あり

とす

十 鍋類陶器類等の彼地にても需め得べしといへども直段殊に高く不便理に付成るべく從來持合せのものは荷造の都合を能くして持参する方甚た得益あるべし但し華美のものは申迄もあく不用ありと識るへし

十一 植物の種子は彼地の寒暖風土に應せしむるに成熟し難きものあれば敢て内地より持参せんより、彼地にて舊開拓使以來試験を經し實用の種子を需用するを得とす但麻藍等の種子は内地の種と用意すべし其他蔬菜類は何れの種子も能く生長するあり

十二 初年は殊に植物播種の季節に深く心を用ひ能く先前移住の經歷者に諮り季節を愆らざる様注意すべし

十三 該地に移住のもの協力同心に非されは著しき美果を結ぶ能はざるものゝ如し然れば成るべく當初目的を定むる上に就き實地の事を參酌して約束を定め堅く之を遵守すべきは事業奏効の基礎あるべし故に團結者の中より諸般の統轄を囑するに足るべき者一人及其補佐するべきもの若干名を撰みて主宰せしむるを良とす若然らずして各自の意に任せ目前の小利に馳せ永久の家産と興すべき事を疎かにせば其弊や終に百年の謀と謬り折角奮發して異郷に移住せる功なきに至らん實に鑒す

んは非ざるあり

十四 彼地に移住すべきには季節を撰まざるべからず降雪の頃より翌年融雪の頃迄の間は移住をなすとも初年に在ては何等の業をもあす能はざるを以て三月下旬より四月中旬までに移住し融雪の候と埃ち直に開墾に着手し播種の季節を失はざる様諸般の手廻しを爲すは最も緊要ある事とす又數十戸若くは數百戸團結して移住を謀るときは先づ強壯ある者若干を撰み前年十月頃に渡航せしめ小屋掛等の手配をなし雪中に至らば開墾すへき場所の伐木に従事する等都て翌春總人數移住の準備を爲すは實際大に便益を得る者とす

十五 家屋の移住の當初防寒を主とする草壁草屋根の簡易なる居を設け漸次資力に基き且土地の實況をも熟知せるの後に及んで各自の嗜好に任せ家屋と稱すへき程のものを經營すべきの實益を謂ふへし

十六 凡そ北海道へ移住の志ありて資力の乏しきものへは官にて渡航の保護を加へらるゝ爲め渡航手續の設けありて布達あり然れども是迎も差定められたる漁船の着すへき港より彼地に差定められたる着港迄のものおれど其前後の事に就ても能く注意すへきもの多し其主要は乗船の船都合を聞合せて後ち住地を發すへきやうにして無用の船待あがるべし

きは勿論彼地各自の着すへき港へ直航の船あれば尤も都合宜しけれども直航船は稀あるへけれ其砌は一旦函館港に上陸して更に繼替船の義と函館縣廳に請願すへし然れば夫々繼換船の事を處辨し遣すへし乍去時によりての數日間便船なく船待せざるを得ざる事あれば此場合にては移住すべき地の遠近及陸路便否等を諮りて寧ろ船待せんより陸行の方便の事あるべし然る時の本人の請願に任せ海上渡航賃の額を給して陸行を許可すべき事あるべし

猶各自目途の着港より移住地にの多少の距離あるものにして是等は兎に角陸行せざるを得ざるものなり其陸行に就ても種々心得へき事多かるべけれども就中彼地固有の物品にあらざるものは目下の處にて内地よりの運送に係るを以て殊に高價あるものあり其一二を挙げば草鞋の如きは内地より用意すれり敢て代錢を意とするに足らざるへきも彼地にては格外の高價あるに驚くべし反之薪炭の如きは實に内地に比例あらざるの饒多にして安價あるが如き理勢の免かれざるものなれば旅籠料等は内地より遙に高料ありと期すべし人馬の雇入の殊更に高賃錢あり加之道路の悪しくして老幼は馬に乗らされり行旅し得ざるの場所もあれば夫此旅行中の費用の甚ぶ嵩むへきものありと識るを尤も郡

役所に特に周旋あるべき心得に致し置くといへども不便の地を其覺悟をくんべあらず

右諭達候事

▲明治十六年十二月農商務省第十號告示

本年(四月)第拾號布達北海道轉籍移住者渡航手續第二條第一項戶籍寫ハ自今三通可差出此旨告示候事

▲明治十七年一月農商務省第壹號告示

北海道へ轉籍移住ノ爲メ自費ヲ以テ渡航スルモノト雖モ營業ノ目的確實ナリト認ムルモ移住地到着ノ上資力ナキモノニ限リ明治十六年(四月)第十號布達移住者手續第十三條ニ準シ假家作料并ニ營業器具代及ヒ農業者へハ特ニ種物代ヲ給與ス尤モ移住後滿五箇年以内ニ北海道ヲ去リ他ニ轉籍又ハ寄留スルトキハ同手續第十四條ニ依リ保護金額辨償セシムベシ此旨告示候事

▲明治十七年五月農商務省第三號告示

明治十六年(四月)第十號布達北海道へ轉籍移住者手續ノ義ハ移住者ノ目的ヲ遂ク得ルヤ否ノ上ニ關シ本人ノ志操身體家族ノ摸樣家産ノ程度等精密ノ調査ヲ要シ尙クモ不都合ナルモノハ渡航保護ヲナスヘカエサルハ實

○第一類○行政法○北海道轉籍移住手續

地ノ景況即チ十六年(四月)本省號外諭達ニ示スカ如クニシテ之ヲ既往移住者ノ覆轍ニ鑒ミルモ猶然ルナリ且十六年(六月)本省第六號達第五項ニ示ス處ノ年度内經費ノ都合ニ依リ翌年度迄渡航ノ保護ヲ停止スルコトアルヘキナリ然ルニ渡航保護願人中ニハ未ダ許可ヲ得サル已前早ク已ニ家財ヲ賣却シ足ヲ跛テ、渡航票ノ下付ヲ相待テ適々資格ノ不都合ナルモノ若クハ經費ノ都合ニ依リ許可相成ラサルノ場合ニ會シ進退維レ谷ノ事情ヲ具シ哀願若クハ苦情ヲ相唱フル等ノ向ナキニシモアラズ畢竟渡航保護上ノ布達及達ヲ疎カニ解シ諭達ノ旨趣ヲ等閑ニ附スル等ニ出ツルモノト謂ヘシ甚不都合ノ次第ニ付將來渡航保護ノ許可ヲ得サル已前輕舉スヘカラサルハ勿論諭達ノ旨趣ヲ篤ク服膺シ尙願書ハ可成調査ノ時日ニ餘裕アルヘキ様進達方ニ注意スヘシ此旨告示候事

▲明治十六年六月農商務省第六號(府縣)達

本年(四月)第拾號布達北海道轉籍移住者渡航手續細節左之通可相心得此旨相達候事

- 一 渡航ノ保護ヲ出願スル者ハ別紙願書式ニ依ルヘシ
- 二 荷物運送官費支給ノ制限外ニ涉ルノ場合ト雖モ強テ荷造ノ區別ヲ要セズ但其制限外ニ涉ル分ノ運賃ハ其乗込タル船ニ自費直拂セシムヘシ(參)

考一尺立方チ一才ト稱シ四十才ヲ以テ一噸ニ比例ス

▲(明治十七年十一月同省第二十壹號達)

昨十六年(六月)當省第六號達北海道轉籍移住者渡航手續細節第二項括弧中ノ儀ニ付本年(五月)第拾壹號ヲ以テ達候儀モ有之候處更ニ一才ト稱シチスト改正シ以下削除ス此旨相達候事

- 一 渡航者ノ乗込タル船横濱ニテ若滞船日ヲ重ネ三菱會社共同運輸會社運漕船舶中ニテ繼替乗船スヘキノ便利アル場合ニ於テハ當該乗組船長又ハ取締役ノ加印ヲ以テ繼替乗船ノ義ヲ本省ヘ願出ルルハ之ヲ認可シ更ニ乗船標ヲ下附スヘシ

四 移住地最近ノ港灣ヨリ移住地ニ到ル距離三里以上ニ涉ルモノ、手當金ハ移住地ノ管轄廳於テ其里程相當ノ金額ヲ給與スヘシ
 五 年度内經費ノ都合ニ依リ翌年度迄渡航保護願ヲ差止ルコトアルハ官報及東京日々新聞報知新聞上ニ於テ其旨五日間廣告スヘシ

北海道轉籍移住渡航保護願

何(府縣)何國何郡何(町村)第何番地

族籍職業

(附籍)者ナレハ某父兄弟

(叔父甥等)ノイナ記スヘシ

某

一 荷物何箇 但何才(或ハ何噸)

○第一類○行政法○北海道轉籍移住手續

(或ハ云々ニ付手荷物外携帶品無之候)

年號何月出生
年齡何年何ヶ月

妻 何 某

長男 何 全 上 某

長女 何 全 上 某

私儀是迄何々業ヲ營ミ罷在候處今般北海道何縣何國何郡(附村名ノ詳カナルモノハ之ヲ記入スベシ)ニ送籍移住シ何々業ニ就事仕度志願ニ付何港ヨリ何港ニ至ル渡航ノ儀御保護被成下度別紙附屬書相添此段奉願候也

年月日

右

何 某 印

右村

戸長

何 某 印

農商務卿宛

○第二類 民法編

○第一章 戶籍

○第一款 苗字名 明治三年十二月二十一日布告

在官ノ輩名稱ノ儀是迄苗字官相署シ來候處自今官苗字實名相署シ可申事
但非役有位ノ輩同様位苗字實名相署シ可申事

▲明治三年十二月二十三日達

在官並有位ノ輩名稱ノ儀自今官位苗字實名相用候様御達ニ相成候得共平日往復文書等ハ畧式相用不苦候事

但同苗字同官位ノ者有之候得ハ實名相加へ區別可致事

▲明治八年三月第四十四號布告

人民署名肩書ノ儀自今實屬或ハ管下ノ文字ヲ除キ何府縣華族士族平民ト記載可致此旨布告候事

但從來ノ諸規則及ヒ雛形中ニ掲載セル肩書ノ儀モ總テ本文ノ通可相心得事

○第二款 年齡 明治九年四月第四拾一號布告

自今滿二十年ヲ以テ丁年ト相定候條此旨布告候事

○第二類 ○民法編 ○苗字名 ○年齡

▲明治六年二月第三拾六號布告
自今年齡ヲ計算候儀幾年幾月ト可相敷事
但舊曆中ノ儀ハ一千支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月數ハ本年ノ月數ト通
算シ十二月ヲ以テ一年ト可致事

○第三款 兵卒他家相續
明治十五年二月陸軍省
憲兵卒服役中養子分家又ハ他家相續人ヲラント欲スル者ハ一般ノ下士ニ
準シ可取扱儀ト可心得此旨相達候事

○第四款 武官結婚條例
明治十四年五月陸軍省
陸軍武官結婚條例別冊之通被相定候條此旨相達候事
達甲第十三號府縣達

陸軍武官結婚條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事
陸軍省
明治十四年四月二十五日
左大臣熾仁親王

陸軍武官結婚條例
第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ノス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活
計ヲ維持セシメ家政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ

擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其衛生ニ煩ハサ
レ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設
ク
第二條 凡ソ軍人ノ結婚モント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ
仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ
第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士
并ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚ス
ルヲ得但憲兵并ニ會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒ニ在テハ常備服役中
ト雖モ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得
第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ
第五條 將官并ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管
長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テ
ハ後備軍使府縣駐在官與書スヘシ
第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ
其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル
身元證書ヲ添フヘシ
第七條 現役士官并ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ在ノ金額ヲ

納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ証書ヲ出スヘシ

大尉並同等官

四百六十圓

中少尉並同等官

六百圓

准士官

八十圓

下士

八十圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其妻ルベキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ

但公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ル處ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ全額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ベシ

但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ベシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ル、時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村
族籍職業
何某 何女(姉)妹
某
年號月日生
年號月何年何ヶ月
某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金證書)相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年號月日

官 姓 名 印

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

太政大臣陸軍卿(所管長官)宛

○第二類○民法編○武官結婚條例

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官 姓名 印

第二號書式

身 元 證 書

使府縣國郡區町村
族籍職業

何 某 何 女(姉)(妹)

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村 戶長 アラサル地ハ
區長

姓 名 印

年號月日

第三號書式

家計保護金証書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日

官 姓名 印

○第五款 武官結婚家計保護金取扱概則

明治十五年四月陸軍省
達乙第二十七號達

陸軍武官結婚家計保護金取扱概則別冊之通相定候條此旨相達候事

陸軍武官結婚家計保護金取扱概則

第一條 陸軍武官結婚條例第七條ニ掲クル家計保護金ハ總テ其所管長官

ヨリ會計局長ニ送付ズ會計局長ハ計算課長ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條 會計局計算課長保護金ヲ受領スレハ預リ證券ヲ作り會計局長ヨ

リ其所管長官ヲ經テ之ヲ本人ニ付與ス

但預リ證券ヲ付與スル迄ハ其所管ニ於テ假ニ受取證書ヲ渡シ置クヘ

シ

第三條 保護金ヲ納ムルニ公債證書ヲ以テスルハ之ニ屬スル利札ハ利

子下渡シノ期節前會計局長ヨリ所管長官ヲ經テ之ヲ本人ニ付與スヘシ

但本人ノ所管換リタルキハ其旨舊所管長官ヨリ直チニ會計局長ニ通

報スヘシ

第四條 公債證書ヲ納ムルモノ其證書額面ノ都合ニヨリ條例第七條ノ金

額ヨリ超過スルハ妨ケナシ

第五條 保護金ハ結婚出願セシ時ノ官階ニ應スル金額ヲ納シメ其後本人

○第二類○民法編○武官結婚家計保護金取扱概則

官等ニ異動アルモ之ヲ増減スルコトナシ

第六條 其公債証書抽籤ニ當リタルモハ他ノ公債証書若シハ現金ヲ以テ交換スヘシ

第七條 若シ前條ノ手順ヲ爲サズ當籤ノ金額ヲ以テ之ニ充テントキ望ムモノハ其金額ヲ直ニ陸軍省ニ交付アラントキ公債証書所轄ノ府縣ニ出願シ且其趣ヲ所管ニ申出ヘシ所管長官ハ會計局長ニ通報ス會計局長ハ公債証書ヲ其府縣ニ送付シテ金額ヲ受領シ保護金ニ對スル金額ヨリ過剩ノ分ハ本人ニ付與スヘシ

〔第二條受領証書書式〕 ○□ノ印及ヒ〔〕ヲ施スモノハ朱刷

會計

局印

〔第號〕 証

〔納人〕 官 姓 名

〔花〕

花

〔計算課長〕

〔課長〕

金(公債証書額面高)圓(印)

〔紋〕

〔公債証書ハ其種類記號番號ヲ記載ス〕

右家計保護金トシテ正ニ預リ置候也

陸軍省會計局計算課長

明治年月日

官 姓 名(印)

○第六款 僧尼編籍心得方

明治八年十一月內務省乙第百五十一號達

僧尼ノ輩定籍ノ儀ニ付昨七年第七十四號ヲ以テ公布相成候處各自原籍ニ復スル分ハ格別現在地へ本籍ヲ定ムルニ至ツテハ自然各地方區々ノ處分ニ相涉リ候テハ不都合ニ付左ノ通相心得速ニ可致編籍此旨僧尼へ布達スベキ事

心得方

一原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現今住所ノ區内へ別ニ本籍可相定尤本籍ヲ定ムルニ付更ニ土地及ヒ家屋ヲ設クルニ及ハス現住地ノ區戶長へ申立其區内(町村)へ定籍スヘシ若シ現住地ノ區内(町村)ノ外へ本籍ヲ定メ度望ノ者ハ一旦前條ノ如ク定籍ノ上其地ヨリ望ノ地へ送籍スヘキ事

但別ニ本籍ヲ定ムル者身分ノ儀ハ昨七年第七十四號公布ノ通タルヘキ事

〔參看〕明治七年七月第七拾四號布告ハ前編第二類第一章第十八款ニ掲出ス

▲明治九年六月敎部省第貳拾壹號(府縣)達

僧尼編籍ノ件昨八年(十一月)內務省乙第百五拾壹號達書ニ據リ各自本籍

爲相定候上ハ住職中其寺院へ居住ノ儀總テ從前ノ通可相心得答ニ付此旨寺院へ可布達事

○第七款 五等親屬例

明治三年十二月二十日 領布新律綱領中抄出

五等親屬圖	
一 等 親	父母 養父母 子 養子
二 等 親	祖父母 嫡母 繼母 伯叔父姑 兄弟姉妹 夫ノ父母 妻 妾 姪 孫 子ノ婦
三 等 親	曾祖父母 伯叔ノ婦 夫ノ姪 從父兄弟姉妹 異父兄弟姉妹 夫ノ祖父母 夫ノ伯叔父姑 庶子 姪ノ婦 繼父

○第二類○民法編○僧尼編籍心得方○五等親屬例

四等親	高祖父母 夫ノ兄弟姉妹 外祖父母 從父兄弟ノ子	從祖祖父姑 從祖伯叔父姑 兄弟ノ妻 再從兄弟姉妹 舅姨前夫ノ子 曾孫 孫ノ婦
五等親	妻ノ父母 外孫 姑ノ子 女婿	舅姨ノ子 立孫

從父兄弟姉妹ハ、兄弟ノ子、相呼テ從父ト爲ス、長者ヲ兄ト曰ヒ、少者ヲ弟ト曰フ、

從祖祖父姑ハ、祖父ノ兄弟姉妹ヲ謂フ、從祖伯叔父姑ハ、從祖祖父ノ子ヲ謂フ、即チ父ノ從父兄弟姉妹、

再從兄弟姉妹ハ、從祖伯叔父ノ子ヲ謂フ、

舅姨ハ、母ノ兄弟ヲ舅ト曰ヒ、姉妹ヲ姨ト曰フ、

〔參看〕明治十三年七月第三拾六號改定刑法親屬例ハ前編第五類第一章第一款刑法中第一編第十章第百十四條及第百十五條ニ掲ク

○第二章 雜令

○第一款 華族ノ席次 明治十七年七月宮内省乙第五號(華族一般)達

華族席順ハ爵ヲ以テ定ム爵同キ者ハ位階ヲ以テ定ム
右相達候事

○第二款 華族無爵者禮遇 明治十七年七月宮内省乙第六號(華族無爵者禮遇)六號(華族無爵者禮遇)ハ特ニ其戶主ノ爵ニ均シキ禮遇ヲ享ケシム
右相達候事

○第三款 華族願伺差出方 明治十年三月宮内省甲華第三號(華族有之府縣)達

華族ノ輩願伺等ノ儀ニ付昨九年(十一月)當省華第二十號達ノ趣ニ有之候處詮議ノ次第有之自今無位子弟及ヒ家族ノ身分ニ係ル願伺ト雖モ養子女養弟妹及ヒ入夫等ノ義ハ當省ニテ取扱候條此旨相達候事

○第二類 ○民法編 ○華族ノ席次 ○華族無爵者禮遇

但管下華族へハ該府縣ヨリ本文ノ趣可相達事

▲明治九年九月第八十六號(華族有之府縣)達

華族ノ兼願届等ノ儀ニ付本年(五月)第四十八號ヲ以テ相達置候趣モ有之候處自今其家名又ハ身上ニ係ル願届(例へハ隱居家督元服生死及給祿等ノ類)ハ宮内省へ可差出其他地方ニ係ル分ハ(例へハ土地賣買地券書換諸車檢印等ノ類)管轄廳へ可差出此旨華族へ可相達事

▲明治十三年三月宮内省乙第一號(華族有之府縣)達

別紙華第二十二號之通華族へ相達候條自今右等ノ願ハ其廳ニ於テ可取扱候此旨相達候事

[別紙]華第二十二號

華

族

華族ノ兼願届等ノ儀ニ付明治九年(九月)第八十六號公達以後土地賣買地券書換等ノ願ハ其管轄廳へ差出候ニ付テハ自今學校病院及濟貧恤窮之費途へ出金願ノ義モ同様其管轄廳へ可差出候此旨相達候事

明治十三年三月三日

宮内卿 德 大 寺 實 則

▲明治十七年八月宮内省乙第七號(華族一般へ)達

華族元服ノ儀ハ明治五年百三十七號公布ノ趣モ有之候處自今届出ルニ不
及此旨相達候事

(參看)明治五年四月第百三拾七號公布

華族元服自今願ニ不及候條前以テ日限可届出事

○第四款

僧尼肉食蓄髮
解禁及其心得

明治五年四月
第百卅三號布告

自今僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手事

但法用ノ外ハ人民一般ノ服ヲ着用不苦候事

▲明治六年一月第二十六號布告

壬申第百三十三號布告僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手旨被仰出候ニ付テハ

自今丘尼ノ儀モ蓄髮肉食縁付歸俗等可爲勝手事

但歸俗ノ輩ハ入藉致シ候上戸長へ可届出事

▲明治十一年二月内務省番號(佛道各宗管長)達

明治五年(四月)第百三拾三號僧侶肉食妻帶等可爲勝手公布ノ儀ハ從前右等ノ所業ヲ禁止セシ國法ヲ廢セラレ候旨趣ニ止リ決シテ宗規ニ關係無之譯ニ候條此旨爲心得相達候事

▲明治九年(十二月)第百五十六號布告

僧尼ト公認スル者ハ諸宗教導職試補以上ニ限リ候條此旨布告候事

(參看)明治十七年八月第十九號布達ヲ以テ神佛教導職ヲ廢セラル尙同月

○第二類○民法編○僧尼肉食蓄髮解禁及其心得○乘兒養育 六百三

第六拾九號ヲ以テ從前教導職タリシ者ノ身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ取扱フ者トスルト布達セラル

○第五款 棄兒養育 明治十年五月內務省 乙第五十二號(府縣)達 棄兒養育致候寄留人へ養育米渡方ノ儀自今寄留中ハ其寄留地ノ管轄廳ヨリ可下渡此旨相達候事

▲明治九年六月內務大藏兩省乙第七拾五號達 年額月額有之御手當金渡方ノ儀ニ付テハ明治七年(一月)第十五號公達ノ趣モ有之候處棄兒養育米ノ儀ハ來ル七月一日ヨリ全月未滿端日數ノ分ハ日割ヲ以テ支給可致此旨相達候事

但病死等ノ節渡過相成候分ハ明治八年(四月)兩省乙第六十三號達但書ノ通可相心得候事

▲明治六年三月第七拾九號布告 三子出產ノ者其家困窮ニシテ養行届兼候向ハ以來養育料トシテ一時金五圓給與致シ候間地方官ニ於テ速ニ施行致シ追テ請取方大藏省へ可申出候事

○第六款 人身賣買ノ禁 明治三年八月十三日布告

各港在留ノ支那人共竊ニ童男女ヲ買取リ海外へ可連越奸計相企候者有之既ニ捕押ニ相成候ニ付追テ嚴重ノ御處置可有之候得共元來外國人へ御國民賣渡シ候儀ハ第一御國牀ニ於テ不相濟事ニ候間向後地方官ニ於テ管内屹度取締相立教育行届候様厚ク相心得可申此旨相達候事

▲明治五年二月第五十五號布告

各港在留ノ支那人共我窮民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相達候得共未タ右様ノ所業致候者モ有之哉ノ趣畢竟內國人ヨリ賣渡シ候故支那人ニ於テモ買取本國へ連行販賣スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シ不容易儀ニ付向後右様不心得ノ者於有之ハ嚴重處置ニ可及候間地方官ニ於テ管内取締厚ク可加教育候事

○第七款 傳染病ニ係ル 赤貧者處分方 明治十六年二月 第八號(府縣)達

明治十四年(四月)第三拾號達左ノ通改正候條此旨相達候事 傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキハ本籍寄留旅行ヲ問ハズ其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スベシ 但流行ノ勢盛ナルトキハ時宜ニ依リ官費支給スルコアルベシ

○第二類○民法編○人身賣買ノ禁

第三章 契約及證書

第一款 預金穀證書處分方

明治七年三月 第廿七號布告

預金穀ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ルノ明文ナキ分ハ出訴候トモ本年五月一日ヨリ以後ハ貸金同様ニ裁判可致候條此旨布告候事

第二款 契約證書解釋方法

明治十年十月司法 省丁第七十五號

大審院諸裁判所へ達

契約證書解釋方法ノ儀太政官へ相伺候處別紙ノ通御指令相成候ニ付心得ノ爲メ此旨相達候事

裁判上契約證書解釋方法ノ義ニ付上申

抑モ契約證書ナル者ハ雙方ノ權利義務ヲ定メ其旨趣目的ヲ確實ナラシムルモノニシテ素ヨリ輕易ニ付スヘカヲサレナリ然ルニ各人契約ノ證書動モスレハ疎漏ニ流レ訴訟トナルニ及テ意義ノ解釋ニ苦シム文意汎漫立言曖昧ニシテ契約ノ趣旨目的明劃ナラサル者アリ意義兩端ニ渉ル者アリ其他地方ノ慣習ニ因リ文言ノ其趣旨ニ適セサルモノアリ裁判官タルモノ活眼以テ之ヲ解シ明察以テ其要旨ヲ探ラサレハ裁判其當ヲ失ヒ冤ヲ吞ミ憾

ナ含ミ却テ人民ヲシテ冤屈ニ沈マシム慎マサルヘケンヤ

現今裁判上ノ景況ヲ視ルニ特リ其文詞ニ拘泥シ其契約ノ主旨ヲ誤リ或ハ文意ノ曖昧ナル者ハ概シテ無効トナスカ如キノ弊害アルヲ免レサルナリ果シテ然ルハ權利者却テ權利ヲ失ヒ義務者却テ義務ヲ免ル、ニ至リ雙方ノ權義ヲ錯乱シ各人ノ權利財産ノ安固ヲ妨害スル實ニ鮮少ナラサルベシ是ニ於テ道理ニ基キ便益ヲ測リ猶佛國民法ノ法理ニ據リ契約證書ノ解釋法ヲ指示シテ裁判上ノ謬誤ヲ豫防スルヲ目今ノ一大急務タリ

因テハ別紙ノ通紙シキ契約證書ノ解釋方法兼テ於當省議定イタシ置キ斯主旨ヲ以テ伺出ノ向キへ指令ニ及ヒ度又時宜ニ因リ各裁判所爲心得相達候儀モ有之ヘク存候抑モ是等ノ事ハ事理ノ然ラサルヘカヲサレ者ニ候得共爲念一應相伺候條至急御裁令ヲ請

御指令

伺之趣ハ修正ノ通相心得ベシ

(修正) 契約書解釋心得

- 一、契約書ヲ解釋スルニハ其文字ノミニ依若スルヨリハ寧ロ其契約ヲ爲シタル雙方ノ者ノ旨趣如何ヲ考察スベシ
- 二、一個ノ條款ニ様ノ意ヲ帶ルルハ其契約ノ効ナカラシム可キ意ニ之レ

第二類 ○民法編 ○預金穀證書處分方 ○契約證書解釋方法

- 一、文意ノ曖昧タルモノハ其契約ヲ結ヒタル地方ノ慣習ニ從テ之ヲ解スベシ
- 二、文詞ニ様ノ意ヲ帶ルルモノハ其契約ノ目的ニ最モ適シタル意ニ之ヲ解スベシ
- 三、習慣上通常記載スル條款ヲ契約書中ニ記セサルモ仍ホ之ヲ記シタルモノト看做ス可シ
- 四、契約書中ノ條款ハ皆其全文ノ大意ニ從ヒ互ニ相解釋スベシ
- 五、疑ノ場合ニ於テハ契約ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ利益トナル様之ヲ解釋ス可シ
- 六、契約書中ノ文詞如何ニ泛キトモ其契約ヲ結ヒタル雙方ノ者互ニ相思擬シタル可シト推知スルヲ得ヘキ者ヲ除ク外ハ之ヲ包含セス
- 七、義務ヲ解釋スル爲メ契約書中ニ一箇ノ事項ヲ掲ケタリトモ其契約上當然ニ包含ス可キ事件他ノ事項ヲ除去シタル者ト看做ス可ラス

○第四章 貸借

○第一款 金穀公借共有物取扱規則

明治九年十月第百三十號布告

各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則自今左ノ通相定候條此旨布告候事

- 第一條 凡一區ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スルハ正副區戸長並ニ其區内毎町村ノ總代二名ツ、ノ内六分以上之ニ連印スルヲ要スベシ
- 第二條 凡ソ町村ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル時ハ正副區戸長並ニ其町村内不動産所有ノ者六分以上之ニ連印スルヲ要スベシ
- 但右不動産所有者ヨリ其總代ヲ撰ンテ之カ代理タラシムルハ其都合ニ任スベシ
- 第三條 凡ソ區内若クハ町村内ニテ土木起功スル時ハ其區ト町村ナルトニ隨ヒ各第一條若クハ第二條ニ倣フベシ
- 第四條 若シ第一條第二條及ヒ第三條ニ指示セル場合ニ於テ唯正副區戸長ノ印ノミヲ鈐シ其須要ナル連印ナキモノハ總テ之ヲ該區戸長限リノ私借若クハ私ノ土木起功ト看做スベシ其正副區戸長ノ印ノミヲ以テ共

○第二類 ○民法編 ○金穀公借共有物取扱規則

有ノ地所建物等ヲ賣買シタルモノハ總テ賣買ノ効ヲ有セズ

○第二款 同則施行ノ方法 明治十二年六月 第二十二號布告

區會町村會ヲ開設セル地方ニ於テハ明治九年(十月)第三百二十號布告金穀公借共有物取扱土木起功ノ事項ハ總テ該會議ニ付シ施行スベシ此旨布告候事

(參看) 明治十七年五月第拾四號布告區町村會法ハ前編第一類第六章第八款ニ掲出ス

○第三款 戸長所有之地所建物船 明治十八年三月 月内務省甲第三 六號(府縣)達

船質入書入賣買公證法

戸長所有之地所建物船舶等ヲ質入書入及ヒ賣買セントスルハ其次席ノモノ次席ノモノ無之ハ隣町村戸長ヲシテ公證爲取扱來候處自今戸長ニ於テ成規ノ公證ヲナシ郡區長(戸長役場ヲ兼ヌル區役所ハ府知事縣令)之檢閱ヲ爲受候様可致此旨相達候事 但檢閱之證トシテ公證帳簿ト證書トニ郡區役印之割印ヲナスベシ

○第四款 坑物抵當貸借禁令 明治七年十一月 第百廿四號布告

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

(參看) 明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法ハ前編第一類第二十八章第一款ニ掲出ス

○第五款 社寺負債處分方 明治十年五月 第四十三號布告

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スベシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキモノト爲スベシ 右布告候事

○第一類(民法編)○坑物抵當貸借禁令○社寺負債處分方 六百十一

現行日本法律規則大全續編 上卷畢

現行日本法律規則大全續編 下卷

高木周次編纂

○第三類 商法編

○第一章 總則

○第一款 同業組合準則

明治十七年十一月

農商務省第三十

七號(府縣)達

同業者組合ヲ結ビ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不抄候處往々其目的ヲ達スルコト能ハサル趣ニ付今般同業組合準則相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ作り認可ヲ請フ者アルキハ此準則ニ基ツキ可取扱此旨相達候事

但認可ノ都度當省ニ届ツベシ

第一條 農工商ノ業ニ従事スルモノニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ
第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

○第三類○商法編○同業組合準則

- 第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱
 - 第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置
 - 第三項 目的及方法
 - 第四項 役員ノ選舉法及權限
 - 第五項 會議ニ關スル規程
 - 第六項 加入者及退去者ニ關スル規程
 - 第七項 費用ノ徵收及賦課法
 - 第八項 違約者處分ノ方法
- 右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
- 第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スベシ
 - 但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルキハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ
- 第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス
- 第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ
- 第七條 規約ヲ改正スルキハ更ニ認可ヲ請フ可シ

- 第八條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フ可シ
- 第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ
 - 但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

○第二章 專賣

○第一款 專賣特許條例

明治十八年四月
第七號布告

專賣特許條例別冊之通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス
但明治四年四月七日布告專賣客規則及明治五年(二月)第百五號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

專賣特許條例

- 第一條 有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クヘシ
- 農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專賣特許證ヲ下付スベシ

○第三類○商法編○專賣特許條例

第二條 專賣特許ヲ願出ルニハ其願書ニ發明ノ明細書并必要ノ圖面ヲ添フベシ但時宜ニ依リ其現品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條 專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 左ノ諸項ニ觸ル、モノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ズ

一 他人ノ既ニ發明シタルモノ

二 專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレタルモノ

三 治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ

四 醫藥

第五條 軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認

ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下付スベシ

第六條 專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ベシ

第七條 專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ届出ベシ

第八條 專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲スル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ベシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト合セテ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムベシ

第十條 專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限ヲ標記スベシ品柄ニ由リ標記スルコトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スベシ

第十一條 專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スベシ

第十二條 專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第十三條 專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許証ヲ返納セシムヘシ

一 第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ

二 願書並明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

一 專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ届出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ

二 專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ

第十六條 專賣特許證ヲ下附シタルトキ及專賣特許無効ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スベシ

第十七條 專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付スヘシ

金拾圓

一 五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾五圓

二 十年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金貳拾圓

三 十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金五圓

四 讓與分與ヲ願出ル者 金五圓

五 追加特許ヲ願出ル者 金壹圓

六 專賣特許証ノ再渡ヲ願出ル者 金壹圓

第十八條 專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

第十九條 專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ并要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サ、ルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 專賣特許ノ發明品ヲ偽造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條 專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第三類○商法編○專賣特許條例

第二十三條 第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條 第六條第二項第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條 專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附 則

明治四年四月七日專賣規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年(三月)第百五號布告但書ニ依リ届出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ

月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得

本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ヶ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ金額ヲ納ムヘシ

○第二款 專賣特許手續

明治十八年四月 第五號布達

今般專賣特許條例制定候ニ付專賣特許手續別紙ノ通相定ム

右布達候事

專賣特許手續

第一條 專賣特許ニ關スル願書及届書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スベシ

第二條 專賣特許ヲ願出ルトキハ壹個ノ發明ニ付願書ニ通明細書並圖面各三通ニ免許料ヲ添フベシ

二人以上協同シテ一個ノ發明ヲ爲シタルトキハ其願書及明細書等ニ連署スヘシ

第三條 明細書及ヒ圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ

○第三類○商法編○專賣特許手續

第四條 專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 發明ノ名稱

二 專賣特許ノ年限

三 條例ニ抵觸セサル旨

四 願書明細書等ニ相違ノ事實ナキ旨

第五條 明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 發明ノ目的及性質ノ大體説明

二 圖面ノ解説(圖面ヲ添フルトキハ)

三 發明ノ製作、構造、組成、及使用ノ方法等ニ關スル詳細ノ説明

四 發明ノ區域

五 發明人族籍住所氏名

第六條 圖面ニハ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名又ハ數字ヲ附シテ明細書ノ説明ト符合セシムヘシ

第七條 條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキハ願書ニ通ニ專賣特許證、約定書寫、及免許料ヲ添フヘシ

第八條 條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ

第九條 條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ通テ差出スヘシ

第十條 條例第六條第二項及第十二條氏名變換ノ届出ヲ爲ストキハ農商務省ニ於テ專賣特許證ニ裏書ヲ爲スヘシ

第十一條 條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ免許料ヲ添フヘシ

第十二條 專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脱漏又ハ過誤アルコトヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セント欲スルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ通テ差出スヘシ

但其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スルモノハ之ヲ願出ルコトヲ得ス

第十三條 專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ届出ヘシ

第十四條 條例第四條第一項ニ觸レ專賣特許無効ニ歸シタル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス

第十五條 附則第二項ニ依リ使用特許ヲ受ケント欲スル者ハ其來歴ヲ詳

第二 (相續者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ)

專賣特許願

一 何發明

右ハ私亡父(亡兄)何誰發明ニ候處何年何月何日死去致候ニ付今般家名相續ノ廉ヲ以テ私受繼候右(機械)(物品)(方法)ノ從來世上ニ使用セラレサルハ勿論一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實并圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

故何之誰相續人

何府縣地名番地寄留

族籍

業名

名印

年月日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

何府縣令

某

印

第三 (追加專賣特許ヲ願出ルトキ)

追加專賣特許願

私(私共)所持罷在候何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル發明ニ就キ今般改良ヲ加ヘ候處一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實并圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間追加專賣特許證御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府縣地名番地寄留

族籍

業名

氏

名印

年月日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

何府縣令

某

印

第四 (讓與又ハ分與ヲ願出ルトキ)

專賣權分讓與願

一 何年何月何日付第何號專賣特許證

一 何發明

一 發明者何之誰

○第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

一現所有主何之誰

右ハ今般別紙約定書寫之通何之誰ハ讓與(分與)致度依テ前記ノ專賣特許證並御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府地、名番地、居住、族籍、寄留

業名

年月日 讓與人 氏 名印

分與人 肩書前同斷

分受人 氏 名印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

何府知事 某 印

第五

專賣特許證紛失(燒失)ニ付再渡願

一何年何月何日付第何號專賣特許證

一何發明

一發明者何之誰

右專賣特許證ハ私所有ニ有之候處何年何月何日何地ニ於テ紛失(火災ニ罹リ燒失)(水難ニ遭ヒ流失)候ニ付再渡相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府地、名番地、居住、族籍、寄留

業名

年月日 專賣特許證所有者 氏 名印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

何府知事 某 印

第六(專賣特許願書明細書又ハ圖面ニ遺漏又ハ誤謬アルトキ其補足又ハ改正ヲ願出ルトキ)

專賣特許願書(發明々細書圖面)脱漏補足(誤謬改正)願

一何年何月何日付第何號專賣特許證

一何發明

一發明者何之誰

一現所有主何之誰

○第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

右專賣特許證ニ係ル願書(明細書圖面)中何々ノ遺漏(誤謬)有之候ニ付別紙之通補足(改正)致度尤之カ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スル儀無之ト確信候間此段奉願候也

何府縣地名番地
居住
密留
族籍

年月日

發明者(發明讓受人)

發明人死去
セシトキ

氏

名印

又發明者存生ノトキハ左ノ如シ

肩書前同斷

發明者

氏

名印

同

現所有主

氏

名印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何府縣知事
令

某

印

第七(專賣特許條例附則第一項ニ依リ專賣特許ヲ願出ルトキ)

專賣特許願

一 何發明

右ハ私(私共)明治何年何月何日發明致シ明治何年何月何日ヨリ使用致來候處一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及ヒ別封明細書ニ記載セル事實并圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許書御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府縣地名番地
居住
密留

族籍

業名

年月日

發明者

氏

名印

又發明者二人ナルトキハ

肩書前同斷

發明者

氏

名印

同

同

氏

名印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

○第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

年月日

何府知事

某

印

第八(專賣特許條例附則第二項ニヨリ使用ノ特許ヲ願出ルトキ)

使用特許願

一 何發明

右ハ何之誰發明ノ(機械)(物品)(方法)ニシテ私儀營業ノ爲メ明治何年何月何日ヨリ之ヲ使用シ來候處今般右發明人何誰專賣權ヲ受候ニ付テハ何箇年ヲ期限トシ右發明使用ノ儀御許可相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何府地名番地 居住 寄留

族籍

業名

氏

名 印

年月日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事

某

印

明細書文例

用紙美濃紙共上部曲尺一寸程下部八分程綴シロ一寸五分程ヲ餘白ト爲シ楷書若クハ行書ニテ明瞭ニ記載スルヲ要ス

第一(方法ノ發明ヲ記載スルトキ)

明細書

煤氣精製ノ改良法

煤氣ヲ精製スルニ當リ其容積ヲ著シク減少セシメテ其照力ヲ増進スルヲ得ヘキ新奇有益ノ改良法ヲ發明セリ之ヲ左ニ明解ス
從來煤氣ヲ精製スルノ方法ハ煤氣ヲシテ甑炭中ヲ通過セシムルニアリト雖モ單ニ甑炭ノミヲ使用スルトキハ暫時ヲ經ルノ後汚物ヲ吸收スルノ力ヲ耗失スルカ故ニ蒸氣若クハ水ヲ以テ甑炭ヲ洗滌スルカ或ハ煤氣ト共ニ大氣ヲ通過スルカ然ラスンハ熱ヲ以テ甑炭ヲ再調セサルヘカラス而シテ單ニ甑炭ノミヲ使用スルルハ管ニ煤氣ノ照力ヲ減殺スルノミナラス其容積ヲモ亦減少スルノ憂ヲ免レズ
此改良法ノ目的ハ煤氣ノ照力ヲ減殺セズ其容積ヲモ亦著シク減少セズシテ其操作法ニ間斷ナク且ツ煤氣ヲ充分ニ精製スルニアリ即チ其法ハ煤氣中ノ汚物ヲ除去スル力ヲ增加スレトモ該氣中ノ照氣ヲ吸收セサル

○第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

物體ヲ獸炭ニ混合シ大氣ト共ニ煤氣ヲシテ之ヲ通過セシムルモノトス
 此發明ヲ實施スルニハ石炭「タール」若クハ該油ト水或ハ單ニ水ノミヲ
 以テ獸炭(新製ノモノ又ハ使用セシモノニテモ可ナリ)ヲ浸潤シ之ヲ一
 器或ハ數器内ニ充填シ以テ之ヲ精製器トス若シ浸潤スルニ單ニ水ノミ
 ナリテセサルトキハ獸炭ヲ乾燥シテ充填スルモ亦可ナリ而シテ煤氣ヲ
 該精製器内ニ通過セシムルニ當リ蒸溜器若クハ本管ヨリ少量ノ大氣ヲ
 導入シ例ヘハ精製スル煤氣ノ容積一百分之十乃至二乃至二分ノ
 一ノ比例ヲ以テ之ヲ煤氣ニ混合セシメ然ル後煤氣ヲ該器内ニ通過セシ
 ムルモノトス但シ大氣ノ量ハ煤氣中ニ於ケル汚物ノ多少ニ關係ス若シ
 大氣ヲシテ煤氣ト善ク混合セシメント欲セハ蒸溜器ト精製器ノ間ニ於
 ケル本管ノ一局部又ハ精製器ニ密接シタル處ニ於テ適宜ノ混合機ヲ裝
 置スヘシ水瓦斯ヲ精製スルノ際ニモ亦大氣ヲ該瓦斯中ニ導入スルトキ
 ハ單ニ水ノミヲ以テ浸潤セル獸炭ニテ可ナリ
 此法ニ據レハ大氣中酸素ノ一部ハ硫素ト抱合シ終ニ可溶鹽類ヲ生シ其
 殘餘ハ全ク硫化水素及其他ノ含水素硫素複體ノ水素ト抱合シテ水ヲ生
 シ更ニ遊離酸素ヲ殘留セス硫化水素及其他ノ硫素複體中ニ於ケル硫素
 ノ一部ハ遊離狀トナリテ獸炭中ニ沈澱シ窒素ノ一部ハ殘餘ノ水素ト抱

合シ終ニ「アムモニヤ」鹽類ヲ生ズ若シ窒素ハ精製シタル煤氣ト共ニ通
 過シ去ルコトアルモ甚タ僅少ナルヲ以テ更ニ害アルコトナシ
 此ノ如ク大氣ヲ使用スルトキハ獸炭久シク其作用ヲ保存スルヲ以テ該
 操作法ハ常ニ間斷ナク施行スルヲ得ヘシ
 最後ニ獸炭ノ吸收力ヲ失スルニ至リタルトキハ其有用ナル「アムモニ
 ヤ」鹽類ヲ含有スルヲ以テ之ヲ賣却スヘシ然ラズノハ熱ヲ以テ獸炭ヲ
 再調シ或ハ水ヲ以テ之ヲ洗滌シ而シテ適宜ノ溶劑ヲ以テ硫素ヲ分離シ
 再ヒ之ヲ使用スヘシ
 石炭「タール」ヲ獸炭ニ混合スルニ因リ其煤氣中ノ生油氣及其他ノ照性
 重炭化水素ヲ吸收スルコトナシ
 獸炭ヲ精製器ニ充填スルノ前若クハ後ニ於テ獸炭ヲ處理スルニ煤氣中
 ノ照氣ト相互ノ關係アル適宜ノ物體即チ該炭ニ交和シテ照氣ヲ吸收セ
 シメサル所ノモノヲ以テスルヲ得ヘシ特ニ石炭「タール」ヲ掲ケシ所以
 ハ其最モ得易キヲ以テナリ但シ該油中ノ炭化水素溜液即チ「ベンゼン」
 ル一屬ノモノヲ使用スルモ亦可ナリ
 石炭煤氣ノ場合ニ於テハ前記ノ如ク獸炭ハ該氣中ノ硫化水素ヲ吸收ス
 但シ乾燥ナル獸炭中ニ煤氣ヲ通過セシムルトキハ多少其照力ヲ減殺ス

第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

ヘシ然レトモ大氣ヲ使用シ且ツ石炭「タール」ヲ以テ獸炭ヲ浸潤スルト
キハ却テ之ヲ増進ス是レ此ノ如クシタル煤氣ノ照力ハ獸炭ヲ通過セサ
ルトキト同一ナレトモ通過セサルモノニ比スレハ尙ホ一層白焰ヲ生ス
ルヲ以テナリ

此法ニ據ルトキハ硫素ト水素ハ相分離シ硫素ハ獸炭中ニ殘留シ水素ハ
煤氣ト共ニ通過シ炭素氣モ亦全ク通過スルヲ以テ煤氣精製ノ前後ニ於
テ實際其容積ニ差異ヲ生セス

此改良法ノ大ニ便宜トスルハ煤氣ヲシテ凝縮器ヨリ直接ニ新發明ノ精
製器内ニ通過セシムルヲ得從テ擦捺法ト精製法トヲ結合セシムルヲ得
ルニアリ

硫化水素ヲ除却スルニハ之ヲ煤氣中ニ於テ分解スヘキ酸化鐵、錫、
「マンガン」ニ「ス」鐵ノ如キ物體ヲ獸炭ニ混合スルモ亦可ナリ
此精製器ヲ以テ精製セル煤氣ハ更ニ「アンモニヤ」及硫素ヲ含マス殆
ト無臭ナリ

此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ左ノ二條トス

第一 己ニ陳述セシ如ク獸炭ノ方便ニ依リ煤氣ヲ精製スルニ當リ其煤
氣中ノ照氣ヲ吸收スルヲ豫防スルノ方法即チ照氣ト相互ノ關係アル

適宜ノ物體ヲ獸炭ニ混合スルノ法是ナリ

第二 煤氣ヲシテ大氣ト共ニ石炭「タール」ヲ以テ浸潤セル獸炭中ヲ通
過セシムルノ法是ナリ
右之通相違無ク候也

何府 縣地名番地 居住
族籍 寄留

業名

年月日

發明者 氏 名 印

又ハ發明者二人ナルトキ

肩書前同斷

發明者 氏 名 印

肩書前同斷

發明者 氏 名 印

又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ

肩書前同斷

發明者 氏 名 印

肩書前同斷

○第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

讓受人 氏 名 印

農商務卿某殿

第二(組成劑ノ發明ヲ記載スルトキ)

明細書

脱毛媒助劑

毛皮ヲ鞣化スルニ當リ豫メ其毛及脂肪ヲ脱除シ易カラシムルカ爲ニ使
用スヘキ新規有益ノ組成劑ヲ發明セリ之ヲ左ニ明解ス

此組成劑ハ清水石灰曹達硝石及ヒ花狀硫黃ヨリ成ル即チ其割合ヲ揭
クルヲ左ノ如シ

- 清水 一二五⁺〇
- 生石灰 八〇
- 曹達 一二〇
- 硝石 二四
- 花狀硫黃 一二

以上ノ成分ヲ攪擾シテ善ク之ヲ混和セシムルモノトス
此組成劑ノ用法ハ豫メ毛皮ヲ一日乃至八日間水中ニ浸シ皮裡ニ含有ス

ル鹽類及汚物ヲ脱除シ之ヲ清淨ニシタル後此液劑中ニ浸ス_一四十八時
間ニシテ之ヲ取出シ通法ヲ以テ其毛ヲ脱除スルモノトス
此組成劑ヲ使用スルトキハ當ニ其毛ヲ脱除シ易カラシムルノミナラス
毛皮ヲ鞣化スルニ當リ妨碍ヲ來タスヘキ脂肪及其他ノ物質ヲ脱除スレ
トモ精良ノ柔革ニ變成スヘキ質ハ却テ之ヲ保存ス
此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ上文既ニ記載セシ如ク毛皮ヲ鞣化
スルニ當リ豫メ其毛ヲ脱除シ易カラシムル爲ニ使用スヘキ組成劑是レ
ナリ
右之通相違無之候也

何府地名番地 住居
縣地名番地 寄留
族籍

業名

年月日 發明者 氏 名 印

又ハ發明者二人ナルトキ

肩書前同斷

發明者 氏 名 印

肩書前同斷

第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

發明者 氏 名 印

又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ

肩書前同斷

發明者 氏 名 印

肩書前同斷

讓受人 氏 名 印

農商務卿某殿

第三(器械ノ發明ヲ記載スルトキ)

明細書

「クリーム」分離器械

此發明ハ牛酪製造ノ際氷ノ方便ニ藉リ牛酪ヲ冷却シ以テ其「クリーム」ヲ分離スル爲メニ使用スヘキ新奇有益ノ器械ナリ之ヲ左ニ明解ス
此器械ハ長方形ノ水槽ニシテ其内部ノ中間ニ圖中(イ)ノ如ク氷塊ヲ抑止スヘキ焙格形ノ裝置ヲナシ又槽ノ一側面ニ「クリーム」ノ全ク上浮セルヤ否ヤヲ窺ヒ得ヘキ玻璃窓(ロ)ト槽底ニ接近セル所ニ吸子(ハ)トヲ備ヘリ圖中ニ槽ノ側面ヲ截斷セル所以ハ只タ其内部ノ結構ヲ示サンカ爲メナリ

此器械ヲ以テ乳ヲ冷却スルニハ先ツ槽ノ高サ四分ノ一ニ達スルマテ清淨ナル氷塊ヲ密布シ其上ニ乳ヲ注入ス但シ乳四十斤ニ付氷十斤ノ割合ナリトス然ルトキハ氷塊ハ焙格ニ抑止セラレテ液面ニ上浮スルコトナク從テ乳ト混合シテ「クリーム」ノ分離ヲ妨碍スルノ憂アルコトナシ斯ク乳ヲ冷却スルコト大約四十分時間「クリーム」ノ全ク液面ニ上浮スルテ俟テ之ヲ匕取り尋テ吸子(ハ)ヲ開キ殘乳ヲ瀉出シ之ヲ乾酪製造場ニ送ル此操作中溶解セル氷水ハ少量ニシテ未タ殘液ノ品位ヲ劣スニ至ラス又更ニ「クリーム」ト混合セサルナリ

此器械ニ依リテ分離セル「クリーム」ハ此品位頗ル良好ニシテ其量甚タ多シ而シテ此器械ヲ使用スルトキハ「クリーム」ノ速カニ分離スルヲ以テ殘液ノ酸味ヲ呈セサルニ先チ之ヲ乾酪製造場ニ送ルヲ得ルト一年四季中何時ニテモ常ニ之ヲ施行シ得ルトノ二便アリ
此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ己ニ記載セルカ如ク水槽中ニ裝置セル焙格形ノ抑氷機是レナリ
右之通相違無之候也

府 地名番地 居住
縣 寄留
族 籍

○第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

年月日

業名 發明者 氏 名 印

又ハ發明者二人ナルトキ
肩書前同斷

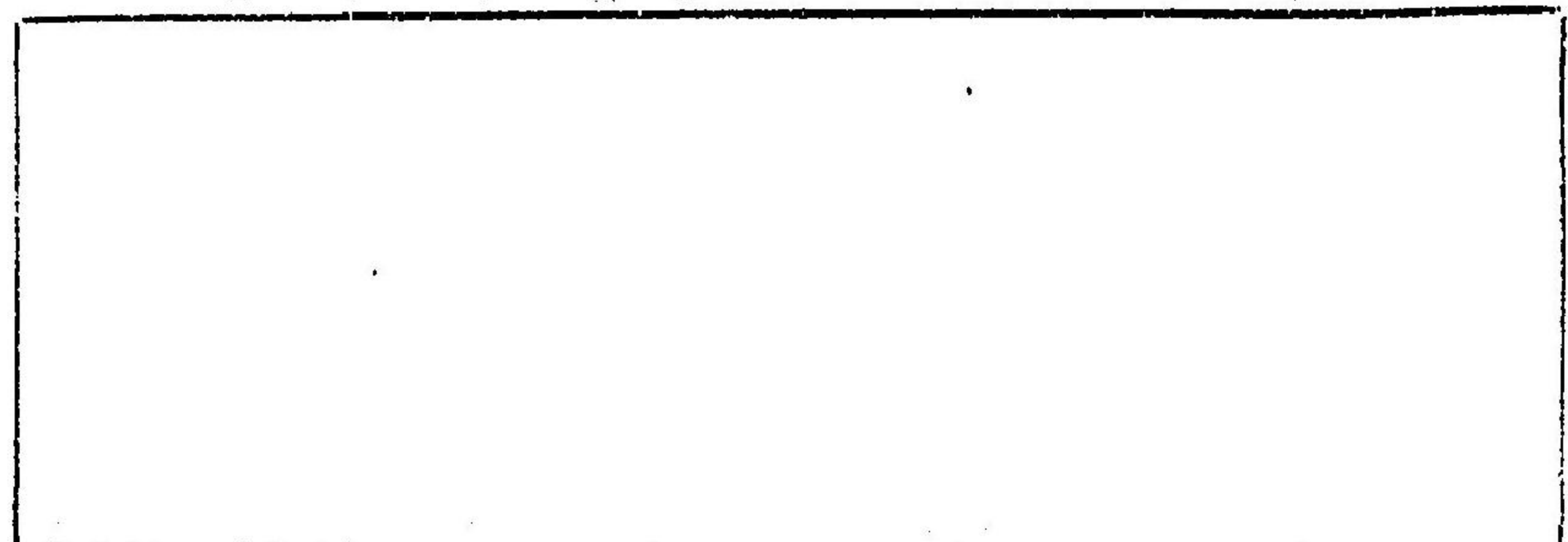
發明者 氏 名 印
肩書前同斷

又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ
發明者 氏 名 印

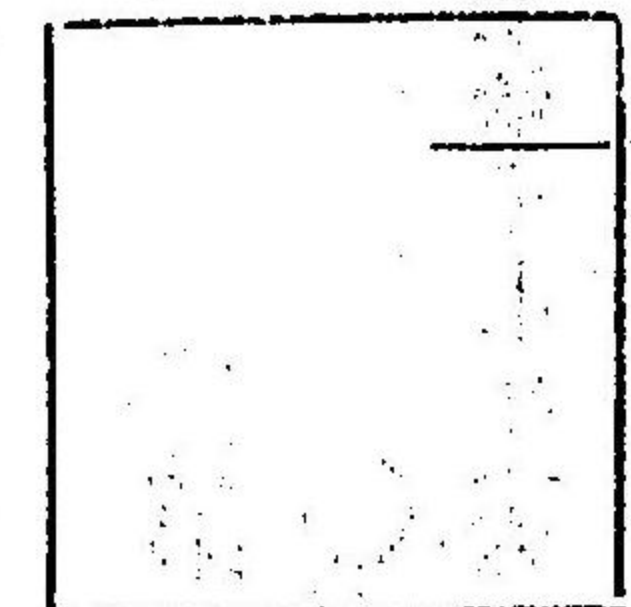
肩書前同斷
發明者 氏 名 印

農商務卿某殿

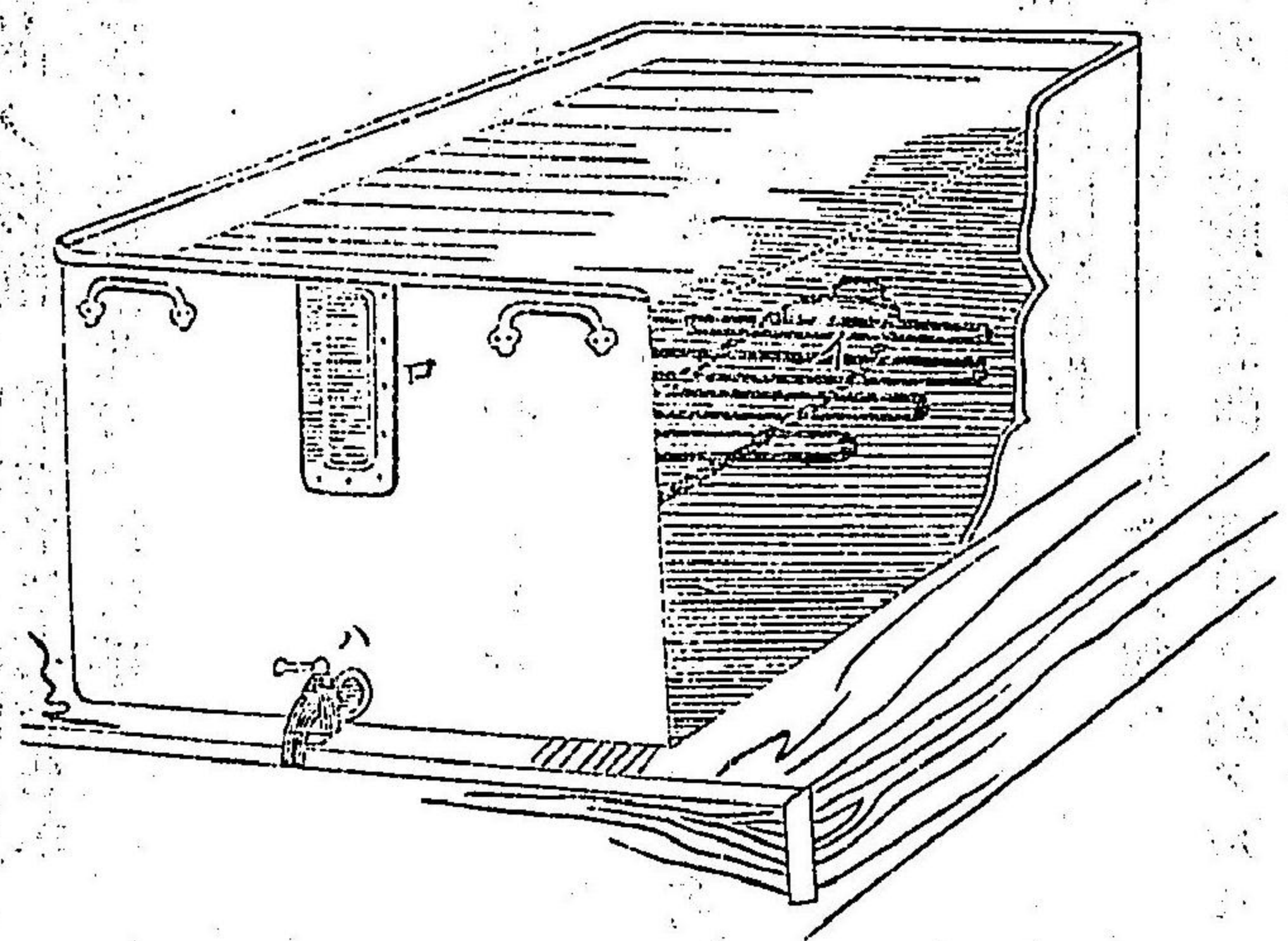
讓受人 氏 名 印



本人割印



第四(圖面)



○第三類○商法編○專賣特許願書式及明細書文例

信致候間御登錄ノ上證書御下附相成度同業者二名ノ保證人相立此段奉願候也

年月日

何府縣地名居住(寄留)族籍

業名

願人

氏

名印

肩書前同斷

保證人

氏

名印

同

氏

名印

又ハ

肩書前同斷

何會社

社印

何組

社長

組長

願人

氏

名印

肩書前同斷

保證人 氏 名印
同 氏 名印

農商務卿某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事
何縣令

某

印

○第三款 官設工場商標 專用方法

明治十七年九月農商務省第二十七號(府縣ニ)達

本年第十九號ヲ以テ商標條例布告相成候處其廳所轄官設工場ニ於テ其製造品ニ商標ヲ専用セント欲スルハ總テ本條例及ヒ本年第十三號布達商標登錄願手續ニ據リ候義ハ勿論ニ候得共其商標登錄願屆書差出方手續ハ直ニ當省商標登錄所ニ爲差出登錄相濟候上手數料ハ其廳ニ收入シ當年第二十四號達ノ順序ニ據リ大藏省ニ納付候義ト心得ベシ
但各省所轄官設工場登錄商標ノ儀モ本文手續ニ據リ登錄濟ノ上手數料ハ工場所在地方廳ニ送付候等ニ付其收納方ハ本文ノ通取計ニシ
右相達候事

▲明治十七年七月農商務省第二十三號達

○第二類○商法編○官設工場商標專用方法

本年第十三號布達商標登錄願手續第一條當省へ差出スへキ願書屆書ハ當省工務局商標登錄所へ送達候義ト可相心得此旨相達候事

○第四款 商標登錄手續

明治十七年七月農商務省第廿四號府縣達

今般第十九號商標條例公布相成候ニ付テハ商標登錄手数料收納手續左ノ通可相心得此旨相達候事

商標登錄手数料收納手續

一(明治十八年四月同省第十四號達改正)商標條例第十四條商標登錄手数料ハ出願者ニ於テ明治十七年大藏省第四十一號達國稅金收納順序ニ依リ第二號ノ切符ヲ以テ郡區長ニ納メ郡區長之ヲ預リ置其旨收稅長ニ報知シ追テ登錄證到達ノ上成規ノ手續ヲ以テ同省へ納附スヘシ但手数料ヲ返付スヘキ場合ニ於テハ同年大藏省第四十二號達ニ依ル

一右手數料ハ登錄證ノ日附(讓與分與其他登錄證ニ裏書シタルモノハ其裏書ノ日附)ヲ以テ年度ヲ區分スヘシ

一收納セシ手数料ハ半ケ年ツ、區分シ別紙雛形ノ通明細表取調(一月七

月)十五日限當省へ差出スヘシ

明治何年 七月ヨリ十二月マテ 商標登錄手数料明細表

(△印ハ朱書)

何府何國何區何郡何町何番地

△寄留ナレハ

當時何縣何國何區何郡何村何番地寄留

姓 名

△登錄証ノ月日但再渡ハ再渡シノ月日ヲ記スヘシ

年 月 日	商標	讓與	分與	改正	再渡	續用	兼用	轉用	手数料
何年何月何日	一個					三種			貳拾五圓
何年何月何日	一個					一種	一種		貳拾圓
何年何月何日		一個						五	圓
計	二個	一個				四種	一種	五拾圓	

○第三類○商法編○商標登錄手数料收納手續

全上

姓名

年 月 日	商標讓與	分與	改正	再渡	續用	兼用	轉用	手數料
何年何月何日	一個				一個	二種		貳拾五圓
何年何月何日	一個	一個	一個	一個			一種	貳拾六圓
計	二個	一個	一個	一個	一個	二種	一種	五拾壹圓
總計	四個	一個	一個	一個	一個	六種	二種	百〇壹圓

右之通候也

年 號 月 日

農商務卿殿

長官姓名印

○第四章 銀行

○第一款 兌換銀行券條例

明治十八年五月第九號布告

明治十七年(五月)第十八號布告兌換銀行券條例第六條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得

○第五章 米商

○第一款 米商會所成規

明治九年八月內務省甲第二十九號布達

本年(八月)太政官第百五號公布米商會所條例ヲ遵奉シ營業致度者ハ自今別冊米商會所成規ニ照準出願可致此旨布達候事

但昨八年大藏省甲第十六號同第十九號及ヒ同年六月心得達ノ趣ハ取消候事

米商會所成規目錄

第一條 會所創立出願ノ手續

○第三類○商法編○兌換銀行券條例○米商會所成規

第二條 開業ノ手續

第三條 營業報告ノ手續

第四條 諸願届其他書類用紙ノ事

第五條 記録保存ノ事

附

第一號 創立願書々例

第二號 創立証書々例

第三號 會所定款書例

第四號 申合規則書例

第五號 開業免狀雛形

第六號 實際報告書例

第七號 計算表書例

第八號 株主仲買人姓名表報告ノ書例

第九號 役員上任報告書例

米商會所成規

此成規ハ米商會所ノ條例ヲ遵奉シ該會所ヲ創立セント欲スル者ヲシテ其創立出願ノ手續及ヒ社則其他ノ標準等ヲ豫知セシメンカ爲メ之

ヲ製定スルモノナリ

第一條 會所創立出願ノ手續

第一節 凡ソ米商會所條例ノ旨趣ニ基キ會所ノ發起人ヨリ差出ヘキ創立願書ハ書例第一號ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第二節 創立證書ハ會所ヲ創立スルニ付キ綱領ノ條件及ヒ株主ノ約束ヲ明記シ總員ヲシテ必ス之ヲ遵守踐行セシムヘキ旨ヲ保證スルモノナリ書例第二號ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第三節 會所定款ハ會所ヲ創立スルニ付キ發起人該會所ノ便宜ヲ商量決定シテ株主一同ヲ約束スヘキ條款ヲ記載スルモノナリ書例第三號ニ倣ヒ之ヲ編製スヘシ

第四節 申合規則ハ賣買取引ニ付キ賣買主雙方ノ間ニ於テ會所ヘ對シタル約束ノ要件等ヲ記載スルモノナリ書例第四號ニ倣ヒ成ルヘク丈ケ綿密ニ之ヲ編製スヘシ

第五節 右ノ會所定款申合規則ハ發起人ニ於テ書例中ノ箇條ヲ省畧シ或ハ之ヲ增加スルモ其便宜ニ任スヘシ

第六節 當省ニ於テ會所ノ創立ヲ承認スルルハ其創立証書及ヒ會所定款申合規則等ニ當省ノ印章ヲ鈐シ地方官ニ指令シ以テ之ヲ請願人ニ達セ

○第三類○商法編○米商會所成規

シムヘシ

第二條 開業ノ手續

第一節 發起人會所創立ノ許可ヲ受ケタルキハ直チニ條例ノ旨趣ニ遵ヒ
株主募集役員撰任等ノ順序ヲ經テ資本總高ノ内三分ノ二營業保證ノ金
額ヲ其地方廳或ハ國立銀行ニ預ケ以テ開業免狀請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 會所ヨリ地方廳又ハ國立銀行へ預クル所ノ保証金若シ公債證書
ナル時ハ夫レニ屬シタル定規ノ利子ハ會所之ヲ得ヘシト雖モ其他利子
ヲ收受スルコトナカルヘシ尤モ別段ノ約定ニ據リ預ケタル時ハ其方法
約定ノ旨趣ヲ詳記シ地方廳ヲ經テ之ヲ當省ニ届出ヘシ

第三節 當省ニ於テハ會所ノ名ヲ以テ地方廳或ハ國立銀行ニ預ケタル現
金或ハ公債證書ノ實額其會所資本總高ノ三分ノ二ニ相違ナキ確証ヲ檢シ
其會所ニ開業免狀ヲ形ノ如シ與フヘシ

第四節 會所開業ノ後ト雖モ其商業ノ模様ヲ檢査シ賣買主ヨリ差入タル
證據金ノ合高ヲ見合セ資本金ノ額ヲ增加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘ
シ

第三條 營業報告ノ手續

第一節 會所頭取肝煎ハ左ノ報告ヲ地方官廳へ差出スヘシ地方官ニ於テ

ハ一應檢査ノ上當省ニ差出スヘシ

第一節 會所毎月實際報告

是ハ毎月前一ケ月賣買約定ニ係リタル金穀ノ合高ヲ掲ケ其内
現場定期ノ取引ヲ區分シ之ニ平均相場ヲ附記スヘシ但書例第
六號ニ照準シテ之ヲ編製シ翌月五日マテニ該地ヲ差立ツ可シ

第二節 總計表報告

是ハ毎年前一ケ年營業ニ係リタル金員出納高ヲ掲ケ其内株金
并ニ手数料等ノ總收入ヨリ税金及ヒ配當金其他社費一切ノ遣
拂又ハ積立金ノ有無等ヲ記載スヘシ但シ書例第七號ニ照準シ
テ之ヲ編製シ翌年一月中ニ該地ヲ差立ツヘシ

第三節 株主仲買人姓名表報告

是ハ株主仲買人ノ姓名族籍住所株數及ヒ身元金高等ヲ記載ス
ヘシ但書例第八號ニ照準シテ之ヲ編製シ定式撰任集會ノ日ヨ
リ三十日ヲ限リ該地ヲ差立ツヘシ

第四節 役員上任報告

是ハ頭取副頭取肝煎支配人上任ノ都度其印鑑ヲ添ユ可シ但書
例第九號ニ照準シテ之ヲ編製シ上任ノ日直ニ該地ヲ差立ツヘシ

○第三類○商法編○米商會所成規

第四條 諸願屆其他書類用紙ノ事

第一節 會所ヨリ地方廳ヲ經テ當省ヘ差出スヘキ諸般ノ願屆其他ノ書類及ヒ報告書等ハ都テ美濃紙又ハ該會所ノ名號アル界紙ヲ用フヘシ

第二節 創立證書及ヒ會所定款申合規則ノ本書ハ必ス證券界紙ヲ用フヘシ又株券其他証券類ハ印稅規則ニ從フヘシ

第五條 記錄保存ノ事

第一節 創立證書會所定款申合規則及ヒ頭取肝煎撰舉社中集會ニ就テノ報告議事ノ如キ會所ニ關係スル書類ハ一切之ヲ記錄ニ綴屬シ頭取肝煎之ニ記名調印シ以テ後日ノ證據參觀ノタメニ保存シ臨時政府ノ檢査ヲ受クヘシ

第一號 創立願書々例

米商會所創立願

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ニ基キ凡ソ下條ノ目的ニ據テ協同結社米商會所ヲ創立シ營業致度候ニ付右創立御許可被成下度依テ別紙創立證書並ニ定款申合規則共相添此段奉願候

使府 何
管下 縣

何町

何萬軒

何百萬石

何十萬石

何十萬石

何郡何港ヨリ輸出

何國何郡ヨリ輸入

何國何郡へ廻送

何郡何港へ廻着

何百人

何千萬石

一賣買取引米凡積

一米商人

同 何部

高米凡何部

內譯

一輸出或輸入米

一同產出米

一該地費消米

一戸數

一創立場所

右現今ノ實況及ヒ將來賣買取引ノ見込共書面之通御座候以上

發起人

何

某

年號月日

管轄地方長官宛

第二號 創立證書ノ書例

米商會所創立證書

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ米商會所
ヲ創立シテ其商業ヲ經營セント謀リ此證書第五條ニ連名シタル者協議シ
テ左ノ條々ヲ取極候也

第一條 當會所ノ總員ハ米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ且ツ會所定款申合
規則ヲ確守ス可シ

第二條 當會所ノ名號ハ何々(國名郡名又ハ所在ノ地名等)米商會所ト稱
スヘシ

第三條 當會所營業ノ年限ハ開業ノ日ヨリ滿一箇年タル可シ

第四條 當會所ハ何(使府藩縣)第一大區一小区一(町港)一番地ニ取建ツヘ
シ

第五條 當會所ノ資本金ハ一萬圓ニシテ之ヲ一十株トナシ其内發起人ニ
テ所持スヘキ株數并ニ其屬籍住所姓名等左ノ表ノ如シ

株數	屬	籍	住	所	姓名
株 此金一十萬圓	(使府藩縣) 華 士族 平民	(使府藩縣) 第1大區 1小区1町1番地 居住 寄留			某
合株數 此金一十萬圓					總計幾人

▲(明治十二年二月大藏省甲第十六號布達ヲ以テ第六條ニ左ノ事項ヲ追
加シ從前六條ノ件ヲ七條トス)

第六條 當會所ノ株主ハ其責任ヲ無限(或ハ保証有限)ト定ムヘシ故ニ若
シ會所ノ鎖店又ハ非常ノ損害ヲ受ケタル場合ニ於テハ其負債及ヒ右ニ
關シタル入費ヲ株高ニ割付ケ(保証有限ナレハ現在所持ノ株高幾倍迄)
之ヲ負擔シ更ニ出金辨償スヘシ

第七條 當會所ノ株主及ヒ仲買人ハ内國人ニ限ル可シ
此證書ハ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極メタル證據トシテ各姓名ヲ自記
調印致シ候追テ加入候者ハ順次連署セシメ可申候也

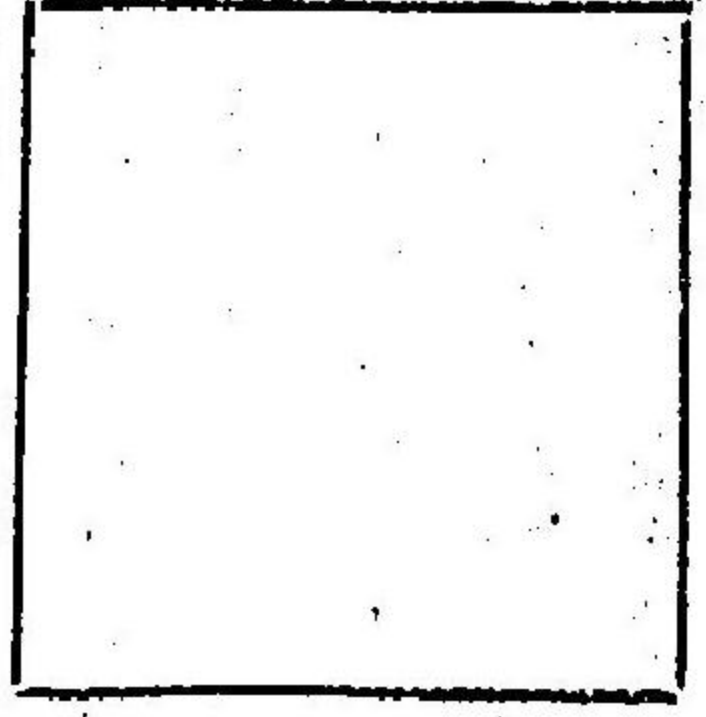
年號月日

株主等運名印

朱

內務省

鈐印位置



第三號 會所定款書例
會所定款

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ何(使)
 (府)(藩)(縣)第一大区一小区何國一郡一町一番地ニ於テ之ヲ創立セシ
 カ爲メ協同結社シテ爰ニ株主一同互ニ約定スル規定ノ條々左ノ如シ

第一條 當會所ニ加入シ株主帳ニ記名調印スル人々ハ創立證書及此定款
 并申合規則ニモ之ヲ承諾セシ證據トシテ必ス記名調印スヘシ

第二條 當會所ハ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ニシテ其事務ハ此
 定款並申合規則ニ從ヒ之ヲ會所頭取及肝煎ニ委任ス可シ又頭取肝煎等
 ハ其約定ヲ監護シ取引ヲ確實ナラシメ其他會所一切ノ責ニ任スヘシ

第三條 當會所ノ役員ト稱スル者ハ左ノ如シ

頭取 一人

副頭取 幾人

肝煎 幾人

商議掛

此內 檢査掛 各幾人

出納掛

支配人 幾人

書記方 幾人

勘定方 幾人

簿記方 幾人

右ノ役員ハ各其職務ニ對シ會所ニ於テ定メタル給料ヲ受收スヘシ

第四條 當會所ノ肝煎ハ投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主ノ内ヨリ
 撰舉シ其人員ハ幾名ト定ムヘシ但シ此内幾名ハ何地(會所創立ノ地ヲ
 云)ニ一ケ年以上在住シタルモノニ限ルヘシ又其撰舉ノ初集會ノ月日
 ハ株主一同ノ都合ニ任セ以後ハ毎年定式ノ集會ニ於テ之ヲナスヘシ
 右撰舉ニ應シタル肝煎ハ其同僚中ニ於テ投票ヲ以テ頭取一名副頭取幾
 名ヲ撰任スヘシ

第三類 商法編 米商會所成規

若シ頭取肝煎等ニ適當スヘキ人才アリテ衆望之レニ歸スルモ其者ノ所持株不足ナルヲ以テ撰擧シカタキハ其株數ヲ定額ニ充ツルマテノ金高ニ増加セシメ然ル后撰任スルコアルヘシ

正副頭取ノ在職ハ一ケ年又肝煎ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間ヲ以テ一期トナスヘシ但シ衆望ニ由リテハ重年セシムルコトヲ得ヘシ

毎年肝煎等撰擧ノ集會ニ於テ其人員ノ半(或ハ三分一)ヲ新任シ其順次舊員ト交代セシムヘシ故ニ初年奉職セシ人員ノ半(或ハ三分一)ハ一ケ年間又ハ殘員ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間在職タルヘシ

頭取肝煎ノ内不時ノ缺員アルトキハ他ノ頭取肝煎ニテ代人ヲ撰擧シ其缺ヲ補フ可シ但シ此人ハ先役ノ奉職期限ヲ越ユ可カラス

支配人已下ノ役員ハ肝煎ノ衆議ニ依リ必ス社中ノ人員ニ限ラス又社外ヨリ之ヲ撰任スルコアルベシ

第五條 頭取ハ會所一切ノ事務ヲ總括シ他ノ役員ヲ指揮シテ其職任ヲ盡サシムルノ權アルベシ又頭取ハ肝煎ノ分掌各掛ヲ議定スルノ權アルヘシ

頭取ハ株主決議ノ旨趣ニ從ヒ株金納入ノ手續キヲ取極メ之ヲ株主ニ通達シ或ハ之ヲ督促シ或ハ期約ヲ違フ時ハ會所ニ於テ其本人へ告知ノ上

株金高ヲ沒收スルノ權アルベシ

頭取ハ米商會所條例及ヒ此定款並ニ申合規則ニ從ヒ總テ其適任ノ職務ヲ執行ヒ不正犯則ノ所行ハ自ラ之ヲ爲サ、ルノミナラス又他人ヲ監督スルノ責ニ任ス可シ

頭取ハ肝煎ノ集會ニ臨ミ常ニ議長トナリ其議事ヲ判決スルノ權アルベシ

副頭取ハ常ニ頭取ノ事務ヲ翼成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルコアルベシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ支配人以下ノ役員ヲ撰任シ其分掌ノ課程及ヒ其權限給料年期等ヲ取極メ又其身元引受人ヲ約定シ或ハ保證金ヲ取置キ又ハ之ヲ褒貶黜陟スル等ノ權アルヘシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ社中ノ差違ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ社中處務上ノ成例ヲ廢立シ又ハ株主ノ衆議ヲ取ノカ爲メ臨時之ヲ招集スルノ權アルヘシ

肝煎ハ毎月何日ヲ以テ肝煎定式ノ集會日ト極ム可シ又此會議ニ於テ發言ノ權利ハ一人ニ付一説ト定メ衆議ヲ取リテ其議事ヲ決定ス若シ可否ノ數相半ハスル并ハ議長ノ判決ニ任ス可シ

○第三類○商法編○米商會所成規

右會議ニ當リ出席ノ定員其半ニ充タサルトキハ其議事ヲ始ム可カラス但シ急遽ノ事件ハ此限ニアラサル可シ

肝煎ハ頭取又ハ其同僚中ニ於テ職任ニ不相當ノ行ヒアルカ又ハ職務ヲ怠ル者アルトキハ時宜ニヨリ其者ヲ免黜スルヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ臨時委員ヲ命シテ其是非ヲ議シ次回集會ノ節無名投票ノ法ヲ以テ三分二以上ノ説ニ從ヒ其可否ヲ決スヘシ

肝煎ハ株主仲買人ノ所爲ヲ監督シ又其手ニテ設ケタル私則慣法等ヲ廢止スルノ權アル可シ尤モ此權ヲ施スニハ先ツ集會ノ上之ヲ評議シ次回ノ集會ニ於テ決定シ之ヲ行フヘシ

肝煎ハ社外ノ人ト社中ノ人トノ間ニ起リタル差違レニハ一切關係スルヲナカル可シ尤モ社中ノ仲買人社外ノ人ノ爲メニ仲買ヲ爲シ退社逃亡死去等ノコアル場合ニ當リ其賣買本主ト相手タル社中ノ仲買人トノ間ニ差違レアルトキハ此限ニアラサル可シ

此場合ニ於テ社外ノ賣買本主ヨリ肝煎ノ處決ヲ請求セル時ハ其賣買本主ヲ社中ノ仲買人同様ニ見做シ之ヲシテ肝煎ノ處決ヲ守リ決シテ違背セサルヘキ旨ノ誓詞ヲ爲サシメ然ル後之カ處決ヲナス可シ

頭取ノ決議ニ依リ肝煎ノ内幾名ニ商議掛出納掛検査掛ヲ命ス商議掛ハ

常ニ會所營業事務上ノ得失利害ヲ商量討論シ及ヒ凡百ノ施設上ニ付キ其順序ヲ立テ或ハ其議案ヲ草シ之ヲ頭取ニ申陳シ又ハ社中ノ衆議ヲ取ランカ爲メ臨時集會ヲ催シ併セテ社中一般ノ疑問ニ答辨シ及違約人處分等ノコニ任スヘシ

出納掛ハ會所ニ關スル金穀出納ノコヲ擔當シ資本金并ニ身元金證據金米代金及ヒ虞穀等ヲ管守シ併テ銀行引合等ノコニ任ス可シ

検査掛ハ會所ノ監察主役ニシテ常ニ金穀ノ出納ヲ監シ諸帳簿計算ノ正否等ヲ點檢シ併セテ營業ノ實況ヲ視察シ現務ノ得失ヲ指摘シテ其顛末ヲ記録シ之レヲ頭取肝煎及ヒ株主一同ニ報告スル等ノ事ニ任スヘシ

検査掛タル者職務ヲ怠リ又ハ偏頗ノ所業其他犯則ノ所業アル時ハ其處分他ノ掛リノ者ヨリ重クスヘシ

第六條 株主定式集會ハ每年何月幾日（幾度ニテモ其月日ヲ定メ記載スヘシ）午前第何時ヨリ第何時マテ當會所ニ於テ之ヲ執行スヘシ其他總株數五分一以上ニ當ル株主ノ請求又ハ肝煎ノ協議ニヨリテハ臨時集會ヲ開クコアル可シ右臨時集會ヲ開クニ當リテハ其場所并ニ期日時限及ヒ議事ノ大意ヲ記シテ少クモ十日以前ニ頭取肝煎ヨリ總株主ニ報知スヘシ

總株數五分一以上ニ當ル株主ノ協議ニテ臨時集會ヲ開カント欲スルハ其議事ノ大意ヲ頭取ニ陳ヘ招集ノ取扱ヲ請求ス可シ若シ頭取ニ於テ十五日間以上其手續ヲ怠ルトキハ請求人自ラ之ヲ招集スルコトヲ得ヘシ

株主集會ノ議長ハ頭取或ハ株主中ヨリ臨時之ヲ撰任スヘシ
株主集會ニ當リ出頭ノ總員其半ニ充タサルハ會議ヲ延引シ更ニ他日ヲ刻ス可シ

集議ニ臨ミ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フニアラサレハ別ニ發言可否ノ多少ヲ算スルニ及ハス議長其議ヲ斷決シテ之ヲ會所ノ議定録ニ記入シ以テ他日其事ノ證據トナスヘシ若シ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フハ議長ノ指揮ニ從テ投票法ヲ行フヘシ但シ此投票ノ多數ヲ以テ集議ノ決定ト視做スヘシ

集議ニ當リ可否ノ發言相半ハスルハ議長之ヲ判決スルノ權アル可シ
定式又ハ臨時集會ニ於テ定款并ニ申合規則ヲ加除改正スル等ハ勿論其他會所一般ニ關係セシ條件ヲ決議シタルハ之ヲ明細ニ記シ必ス內務省ヘ申告スヘシ

第七條 株主ハ集議ニ臨ミ一株ニ付每事一説ヲ發スルノ權アリトス然レ

トモ各其所持スル株數十株以上百株マテハ五株毎ニ一説宛百株以上十株毎ニ一説宛ヲ增加ス可シ但シ會所ノ役員ハ發言スルヲ得ヘカラス株主ハ其株式ヲ質入抵當トナシタル時間ハ集議ニ臨ミ發言スルヲ得可カラズ株主ハ集議ニ當リ代人ヲ出シ發言セシムルヲ得可シ但シ代人タル者モ自カラ其權ヲ有スル者ニ限ル可シ

第八條 株券破損或ハ紛失セシキハ其株主ノ請求ニ應シ之ヲ書換ヘ付與スヘシ但シ破損ナレハ其舊券ト引換ヘ紛失ナレハ其次第ヲ明記シ且ツ相違ナキ旨保証人連印ノ證書ヲ差出サシムヘシ

第九條 當會所ニ於テ株主ノ集金ヲ要スル時ハ其度毎ニ必頭取ノ名ヲ以テ少クトモ十五日以前ニ其旨ヲ通達ス可シ株主タル者若シ集金ノ期日ニ至リ其納金ヲ怠ル時ハ更ニ頭取ヨリ報告書ヲ達シ其集金并ニ期限後ノ利子其怠慢ヨリ生ル雜費ヲモ納メシムヘシ但シ此報告書ニハ再ヒ其期日ヲ定メ若シ此期ヲ誤ルキハ其株式ヲ沒收スヘキ旨ヲ記載ス可シ
右ノ報告書ヲ達スルハ尙ホ再期ヲ怠リ納金セサル者ハ頭取ノ意見ヲ以テ其株式ヲ沒收スルヲ得ヘシ

株主其所持ノ株式ヲ沒收シタル、時右沒收以前ニ納ムヘキ集金ハ沒收後ト雖モ尙其責ヲ免カルヘカラス

第十條 當會所ノ資本金高チ増減スルハ株主ノ集會ニ於テ之ヲ判決スヘシ但シ右増減ノ許可ヲ得テ之レヲ施行スルノ方法ハ其時ニ臨ミ各株主ノ衆議ニ任スヘシ

第十一條 當會所株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入シ或ハ借金ノ抵當トナサント欲スルキハ豫メ其趣ヲ肝煎ニ申出テ其承諾ヲ受ケテ後之ヲ行フヘシ

株主其所持ノ株式ヲ賣買授受スルニ當リテハ雙方連印ノ證書ヲ肝煎ニ差出スヘシ右證書ヲ差出シタル上ハ肝煎ニ於テ會所株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ

毎年ノ定式集會前半ケ月間株式ノ賣買授受ヲ停止シ株式帳ノ書改メヲ爲サ、ルベシ

株主ノ内死去或ハ分散ニ依リ其株式ヲ讓受ク可キ人々ニハ肝煎ノ要用トスル證據ヲ差出サシメ然ル後之ヲ株主トシテ株主帳ヲ書改ムベシ右ノ手續ヲ爲サスシテ賣買授受シタル株券ハ會所ニ於テ其効ナキ者ト看做スベシ

第十二條 當會所ニ於テ自ラ米賣買取引ヲ爲シ又ハ他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買トナリ之ニ從事スル者ヲ以テ總テ仲買人ト稱スベシ但シ他人ノ依

頼ヲ受ケテ仲買ヲナシタルキハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スベシ

又當會所ノ株主タルモノハ會所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ肝煎ノ承認ヲ經テ仲買人トナルコトヲ得ベシ

總テ仲買人タルコトヲ欲スルモノハ毎年何月何日ヨリ何月何日マテニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出スベシ此書面ニハ姓名住所年齢商業等ヲ記シテ之レニ調印シ且ツ二名以上證人ノ連印ヲ要スヘシ尤株主タル者ハ別段證人ヲ要スルニ及ハサルヘシ

此仲買人タル者ハ營業上ニ於テ米商會所條例此定款申合規則ヲ確守ス可キ旨ノ約定ヲ確實ニシ及ヒ違約ノ償辨ニ供用スヘキ爲メ身元證據金トシテ金何百圓ヲ當會所ニ差出シ置クヘシ但シ此身元金ハ會所ニ於テ他ニ使用スル等ノコト無キカ故ニ利子等ヲ拂渡スコトナカルヘシ當會所肝煎ノ承認ヲ經且ツ身元金ヲ差出シ會所ノ仲買人ト成リタル上ハ會所ニ於テハ之ヲ社中ノ人ト視做スヘシ

仲買人入社中ノ期限ハ一ケ年ト定メ毎年何月幾日一幾度ニテモ其月日ヲ定メ記載スヘシ一ヲ以テ撰任ノ期トナスヘシ但シ期限中自己ノ都合ニヨリ退社セント欲スルキハ其旨趣ヲ書面ニテ肝煎ニ申出ツヘシ肝煎

○第三類○商法編○米商會所成規

ハ右ノ書面ヲ少クモ十日間以上取引場ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル
計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ハ其者ノ退社ヲ許シ身元金ヲ返附シ證
人ノ責任ヲ解クヘシ

仲買人若シ會所又ハ社中ノ人ニ對シ不正不實ノ所業アルヲ以テ其者ヲ
除名スヘキ場合ニ至テハ肝煎ノ衆議ニ依リ其證人ヲシテ三十圓以下ノ
過意金ヲ差出サシムルコトアルヘシ

▲明治十二年二月大藏省甲第拾六號布達ヲ以テ本條へ左ノ五項追加

仲買人ハ同社中ノ投票ヲ以テ二百圓以上ノ身元金ヲ差入タルモノ、内
五名以上(乃至十名)ノ委員ヲ撰任シ會所肝煎ノ集會ニ參席シテ賣買上
諸規則ノ議事ニ與ルコトヲ得ヘシ

仲買人ハ其身元金ノ差入高ニ應ジ同社中ニ對シテ發言投票ハ勿論賣買
ノ權利ニ於テ其差等ヲ有スルモノトス

仲買人ノ入社ハ會所營業ノ都合(例へハ資本金三萬圓ナレハ仲買人員
百名迄ヲ程度トナシ其以上一万圓ヲ増ス毎ニ三十名ヲ加フ割合)ニ依
リ其人員ヲ幾千名ト定メ豫テ右制限ニ超過セサルヲ要スヘシ

但從前超過スルモノ即今減員ニ不及ト雖モ追テ右制限ニ比準候迄新
ニ入社ヲ許サ、ルヘシ

仲買人入社ノ申込ニ當リ一旦破産シタルモノ或ハ身代限りノ處分ヲ受
ケシ者其負債ノ義務ヲ免レタル實證ヲ認メサレハ入社スルヲ許サズ又
該會所及ヒ其他ノ會社ニ於テ違約除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ其退社ノ
日ヨリ滿ニケ年以上ヲ經ルニ非レハ入社ハ勿論他ノ手代ト爲リ會所ニ
出入シ營業スルヲ許サ、ルヘシ

仲買人ハ各自正確ナル手帳ヲ所持シ日々取組タル所ノ石數代價及ヒ賣
買本人又ハ注文向キノ姓名住所並ニ取引始末等ヲ詳記シ而シテ不時檢
査ノ官員又ハ特ニ會所ノ命ヲ奉シタル役員ノ要求ニ依リテハ何時モ之
ヲ差出スヘシ若シ其要求ヲ拒ミ又ハ之ヲ所持セサルカ或ハ其記入ヲ怠
ルカ又ハ記入ニ不正等アルトハ都テ違約人ヲ以テ之ヲ論シ且其事柄ニ
依リ公裁ニ付スヘシ

第十三條 仲買人タル者其名代トシテ手代ヲ會所ニ出サント欲スルトハ
書面ニテ其者ノ姓名住所并ニ丁年ナルコト及ヒ委任ノ權限等ヲ詳細書面
ニ認メ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得テ後會所ニ出スコトヲ得ヘシ但此書面ハ
少クモ十日間以上取引場ニ張出シ置キ異存ノモノナキコトヲ認メタル上
ニアラサレハ手代ヲ會所ニ出スコトヲ許サ、ルヘシ
手代ノ姓名ハ其主人ノ姓名ト共ニ會所ニ揭示シ其主人ヨリ別ニ報告ナ

キ時間ハ其手代ノ取結ヒタル約定ハ都テ主人ノ引受タルヘシ
主人若シ其代人委任ノ權ヲ解クキハ速ニ之ヲ肝煎ニ報告スヘシ然ル上
ハ肝煎ニ於テ其趣ヲ會所ニ揭示シ其手代ノ姓名ヲ取消スヘシ
手代若シ違約ヲ爲スモ其主人ニ於テ違約ノ償辨ヲナシタルキハ其手代
ハ會所ニ於テ取引ヲナスヲ禁ジ主人ハ尙ホ仲買人タルヲ得ルト雖モ若
シ主人違約人トナリ社中ヲ除名セラル、キハ其手代タルモノモ會所ノ
出入ヲ禁スルハ勿論タルヘシ

第十四條 當會所營業ノ總勘定ハ毎年一月七月兩度ト定ムヘシ
當會所營業ノ總勘定ヲ爲シ税金並ニ社費ヲ引去リ純益金一ケ年一割以
上ノ利子ニ當ルキハ其以上ノ幾分ヲ以テ準備金トナシ積置クヘシ但準
備金ハ會所非常ノ災害ニテ損失ヲ受クルカ或ハ其他ノ事故ニ依リ株主
ノ集議ニ依テ適當トスルニアラサレハ之ヲ使用スヘカラス
右準備金ハ時宜ニ依リ肝煎ノ決議ヲ以テ公債證書又ハ不動産等ニ替置
シコトヲ得ヘシ
利益金ノ内準備金ヲ引去タル株高ハ之ヲ株高ニ配當シテ各株主ニ割渡
スヘシ當會所ニ損失アリテ資本金不足スルキハ頭取肝煎ヨリ其事情計
算ヲ株主一同ニ公告シ之ノ後ニ生スル處ノ利益ハ其資本高ノ不足ヲ補

ヒ得ルマテノ間配當ヲ差止ム可シ

第十五條 當會所ノ株主及ヒ役員等社中ノ諸規則ニ悖戾シ又ハ不信ノ所
業ヲナス可カラス若シ之ニ違フ者アルキハ株主或ハ肝煎ノ集議ヲ以テ
其輕重ニ從ヒ相當ノ過怠金ヲ付ス可シ又其事柄ニヨリテハ公裁ヲ仰ク
トアルヘシ

第十六條 此定款ノケ條ハ株主ノ議定ニヨリテハ何時ニテモ改正加除ス
ルヲ得ヘシト雖モ必官ノ許可ヲ得テ施行ス可シ

右ノ條々ヲ取極メタル證據トシテ各姓名ヲ記シ調印致シ候也

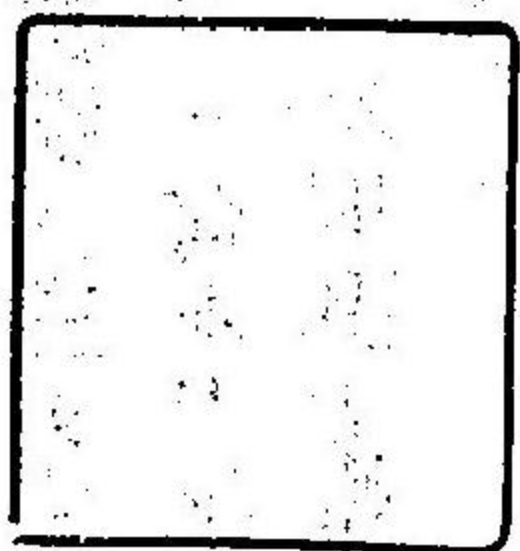
年號月日

朱

株主姓名印

內務省

鈐印位置



第四號 申合規則書例

何々米商會所申合規則

此米商會所ハ明治九年八月太政官第百五號公布條例ノ趣旨ヲ遵奉シ賣買

○第三類○商法編○米商會所成規

上尙ホ緊要ノ條件ニ於テ總員確守ス可キ規程ヲ議定シタルモノ左ノ如シ
第一條 當會所ノ賣買ハ何地米何石建ノ事

但取組ハ一石ノ直段ヲ相唱フヘシ

第二條 約定ノ期限ハ三ヶ月ヲ越ス可カラサル事

但取引ノ期月ハ何々月又ハ毎月何々日ト定ムヘシ

第三條 賣買米ハ本場限り帳入トシテ本場後ノ賣買ハ翌日ノ本場ニテ帳入ト定ムヘキ事

但シ定期賣買ノ帳入米ハ本日本場賣買掲札ノ平均直段ヲ以テ定價トナシ又現場取引勘定ハ相對取引組直段ヲ以テスヘシ

第四條 約定證據金ハ之ヲ四様ニ分チ時價ノ昂低ニヨリ増減スヘキモノト雖モ當分ノ内左ノ通り相定メ其出納時間ハ毎日午前何時限リタルヘキ事

第一 本證據金建米何石ニ付何圓

是ハ本日本賣買高滿何千石マテハ其割合ニ從ヒ翌日ノ出納時限迄ニ入金スヘキ事

第二 半證據金同上何圓

是ハ本場并ニ二番商ヒニテ何千石以上ノ賣買ニ及フモノ即刻記載ノ

割合金ヲ差入レ残り金高ハ翌日定刻ニ入金スヘキ事

第三 追證據金同上何圓

是ハ賣買米約定ノ定價ヨリ一石ニ付何十錢又ハ前件本證據金ノ定額ヨリ何割ノ高低アル時ハ幾度ニテモ追證據金トシテ翌日定刻迄ニ差入レ且ツ又右以外ノ高低何錢何割ニ至ルルハ即日入金スヘキ事

第四 增證據金同上何圓

是ハ約定中何日間休業ノ場合及ヒ取引ノ期月何日前ニ至リテ雙方之ヲ入金スヘシ但シ本日ヨリノ賣買ハ右ニ準シ增證據金ヲ加ヘテ差入レヘキ事

第五條 諸證據金ノ預リ證ハ各銘ノ通帳又ハ切手ヲ用フルト定メ印稅規則ニ遵ヒ印紙貼付致スヘキ事

但シ通帳及ヒ切手ニ記載シタル金穀ハ一切他ニ使用スルヲ許サ、ルヘシ

第六條 約定期限中其賣買米ヲ買戻シ又ハ賣渡シヲ要スルモノハ雙方示談ノ上之ヲ肝煎ニ申立賣買受授ノ手續ヲ經テ其決算ヲ乞フヘキ事

但シ非常ノ乱高下或ハ不穩當ノ所業ト見認ルルハ肝煎ニ於テ其申立採用セサルヲモアルヘシ

○第二類○商法編○米商會所成規

第七條 取引期日ニ至リテハ午後第何時限リ賣主ハ銘柄藏所付又買主ハ代價ノ全部又ハ何部ヲ會所ニ差出ヘキ事

但シ本條部金ハ本場立テ留リヨリ前ニ繰戻シ何ケ日ノ本場直段ヲ合セ之ヲ平均シテ其代價ノ計算ヲ立ツヘシ

第八條 受渡米ハ賣買主并ニ掛リ役員立合ノ上之ヲ検査シテ故障ナキ片ハ立合封印ヲ爲シ其藏出證書ヲ買方へ又其何部代金ヲ賣方ニ相渡スヘキ事

但シ受渡中非常天災ノ損毛又藏敷等ハ両持トナシ又何日以外ハ買方ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第九條 買方二名以上ニシテ賣渡米各種ナル片ハ其銘柄ヲ關引ニシテ受取ルベシ若シ又大石數ナレハ關引ヲ以テ藏出ノ順序ヲ定メ置キ雨天ノ外日々早朝ヨリ受渡ヲ爲スベキ事

但シ受渡ノ節ハ會所附屬ノ小場ケヲ立合セ柵廻引柵等都テ市中ノ通例ニ依テ取扱ハシムベシ

第十條 代米ノ受渡ハ都テ會所ニ於テ定メタル格附ニ從フベシ又受渡ノ藏所ハ會所附屬ノ外其地一圓其他何橋ヨリ何川マテ枝川ハ何河岸通り何町以內ノ藏々ヲ和用フベキ事

第十一條 受渡米検査ノ場合ニ於テ若シ不足アレハ之ヲ補ハシメタル上米何石ニ付金何圓ノ割合ヲ以テ不足セシ俵數ノ過怠金ヲ出サシメ買方ニ相渡スベキ事

第十二條 不熟風災腐化等ノ惡米其他渡方ニナラザル程ノ米症ナル時ノ代米ハ都テ何日限リ差出ス可シ若シ之ヲ怠ル時ハ何石ニ付何圓宛ノ過怠金ヲ差出サシメ之ヲ買方へ渡スベキ事

第十三條 銘柄違ヒ並ニ藏所違ヒハ米何石ニ付キ金何圓宛ノ過怠金ヲ買方ニ渡サシムベキ事

第十四條 賣買主ニ於テ若シ定規ノ證據金ヲ怠リ又ハ銘柄藏所及ヒ何部金等ヲ定刻ニ差出サスシテ違約人トナリタル時賣方ノ違約ナレハ買方ニ於テ其石高ヲ市場ニ買求メ又買方ノ違約ナレハ賣方ニ於テ之ヲ市場ニ賣拂ヒ其不足金並ニソレカ爲メ蒙リタル損失ヲ合セ其者ノ證據金身元金ヲ以テ之ヲ償ハシメ尙ホ相手方ヲ満足セシムル能ハサル時ハ公裁ヲ仰クヘキ事

第十五條 前條ノ處分ニ及フモノハ直チニ之ヲ除名シ若シ其身元金アル片ハ之ヲ沒收スヘキ事

第十六條 會所ノ手数料ハ賣買米何石ニ付當分左ノ通り相定メ又仲買口

○第三類○商法編○米商會所成規

何々米商會所役員印鑑御届
年號一年一月何ノ誰儀ハ當商會所ノ
頭取副頭取肝ニ
撰ハレ其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

何々米商會所
年號月日
頭取姓名印

(別紙)用紙 厚紙堅五寸幅一寸五分

何々米商會所何役

印鑑 (印)

藉 何ノ誰
年號何年何ヶ月
宿所

○第二款 米商會所仲買人定限 明治十七年十一月
農商務省第九號告示
昨明治十六年(八月)第七號告示ヲ以テ定限セル米商會所仲買人員ノ儀東
京ハ百名、大阪ハ七拾五名ヲ以テ更ニ定限トス此旨告示候事

○第三款 米商會所仲買人徵稅法 明治十六年三月
大藏省番外達

(米商會所株式取引所アル)府縣

客年(十二月)第六十五號布告第八條ニ據リ(米商會所株式取引所)仲買人稅
金徵收方法別紙ノ通相定候條此旨相達候事

但米商會所株式取引所及其仲買人ハ地方廳ヨリ相達スベシ
米商會所 仲買人稅金徵收法
株式取引所

第一條 仲買人稅金收納ノ爲メ(米商會所株式取引所)ハ豫テ其帳簿(種目
毎ニ)仲買人各箇賣買品高其相場及ヒ代金ヲ廉限リ記載シ之ヲ仲買人
稅金取扱帳ト稱スベシ
仲買人ハ納稅ノ爲メ豫テ納稅通帳ヲ調製シ各自賣買品高其相場及ヒ代
金ヲ廉限リ記載スベシ

但本文稅金取扱帳ハ米並諸公債證書等前場後場本場ニ番ヲ區別シ小

○第三類 ○商法編 ○米商會所仲買人定限 ○同徵稅法

計ヲ付シ月末ニ至リ月計ヲ付スベシ

第二條 仲買人税金ヲ仲買人ヨリ(米商會所株式取引所)ニ納付スル期限ハ左ノ如シ

一米ハ本証據金差入ノ時

一諸公債證書株式及ヒ金銀貨幣ハ手数料差入ノ時

第三條 仲買人税金納付手續左ノ如シ

一仲買人ハ納稅帳ニ記載ノ賣買代金額ニ應スル稅金額ヲ算出シ該帳ヲ添ヘ其金額ヲ(米商會所株式取引所)ニ納ムベシ

一(米商會所株式取引所)ハ仲買人ヨリ納ムル所ノ稅金ヲ稅金取扱帳ニ照查シ其金額ヲ領收シ仲買人納稅帳ニ領收證印ヲ捺シ之ヲ還付スベシ

但本文納稅帳ニハ證券印紙貼用ニ及ハス

第四條 仲買人税金徵收ノ爲メ(米商會所株式取引所)ハ肝煎ノ中ニ於テ豫テ擔當員ヲ定メ其氏名並ニ領收證ノ印鑑ヲ地方廳ヘ届置クベシ

第五條 (米商會所株式取引所)ハ仲買人税金每一ケ月分取集メノ上(第一號第二號)離形ニ倣ヒ上納證書及ヒ仕譯書ヲ作り金額ハ當省爲替方ニ相預ケ其預リ切符ヲ添ヘ地方廳ヘ上納スベシ

第六條 地方廳ハ別紙第三號離形ニ倣ヒ仲買人稅表ヲ調製シ(一月ヨリ六月マテ)ハ其年七月三十一日限リ(七月ヨリ十二月マテ)ハ翌年一月三十一日限リ當省租稅局ヘ差出スベシ

第七條 稅金取扱帳及ヒ納稅通帳ハ米商會所株式取引所限リ適宜一様ノ式ヲ定メ地方廳ヲ經由シ當省租稅局ヘ届出ベシ

但其様式ヲ變更スルキハ其時々本文ノ手續ヲ爲スベシ
(離形畧ス)

第六章 株式

第一款 株式取引所

明治十七年七月十七號布達

明治十一年(五月)第八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般京都府下京都ニ於テ一箇所差許ス

右布達候事

▲明治十六年七月第貳拾四號布達

明治十一年(五月)第八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般兵庫縣下神戸港ニ於テ三箇所差許ス

右布達候事

○第三類○商法編○株式取引所○洋銀取引所

(參看)明治十一年五月第八號布告株式取引所條例ハ前編ハ第三類第五章第一款ニ掲出ス

○第二款 洋銀取引所 明治十二年二月 第八號布告

從來神奈川縣下橫濱港ニ於テ洋銀相場取引致シ候者有之候處右ハ一切禁止候條自今洋銀取引所設立營業致シ度者ハ昨十一年(五月)第八號布告株式取引所條例ニ照準シ大藏卿へ可願出此旨布告候事

但(明治十二年四月第貳拾號布告ヲ以テ但書廢止)

▲明治十二年二月大藏省甲第貳拾二號布達

今般第八號ヲ以テ公布相成候洋銀取引所設立ノ儀ハ當分橫濱港ニ於テ一ヶ所ニ相限リ候條此旨布達候事

▲明治十二年九月第三拾八號布告

本年(二月)第八號布告ニ據リ設立シタル濱橫洋銀取引所ノ儀自今橫濱取引所ト改稱シ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

▲明治十三年九月大藏省甲第百貳號布達

株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大阪ニ於テ一ヶ所宛ニ相限リ候旨明治十一年五月甲第拾四號ヲ以テ及布達置候處詮議ノ次第有之橫濱取引所ノ儀

自今橫濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式賣買差許候條爲心得此旨布達候事

○第三款 株式取引所仲買人徵稅法 明治十六年三月 大藏省番外達

(米商會所株式取引所アル)府縣

客年(十二月)第六拾五號布告第八條ニ據リ(米商會所株式取引所)仲買人税金徵收方法別紙ノ通相定候條此旨相達候事

但米商會所株式取引所及其仲買人へハ地方廳ヨリ相達スベシ

米商會 所 仲買人税金徵收方法 株式取引所

第一條 仲買人税金收納ノ爲メ(米商會所株式取引所)ハ豫テ其帳簿(種目毎ニ)仲買人各個賣買品高其相場及ヒ代金ヲ廉限リ記載シ之ヲ仲買人税金取扱帳ト稱スベシ
仲買人ハ納稅ノ爲メ豫テ納稅通帳ヲ調製シ各自賣買品高其相場及ヒ代金ヲ廉限リ記載スベシ

但本文税金取扱帳ハ米并諸公債證書等前場後場本場ニ番ヲ區別シ小計ヲ付シ月末ニ至リ月計ヲ付スベシ

○第三類○商法編○株式取引所仲買人徵稅法

第二條 仲買人税金ヲ仲買人ヨリ(米商會所株式取引所)ニ納付スル期限ハ左ノ如シ

一米ハ本証據金差入ノ時

一諸公債證書株式及ヒ金銀貨幣ハ手数料差入ノ時

第二條 仲買人税金納付手續ハ左ノ如シ

一仲買人ハ納稅帳ニ記載ノ賣買代金額ニ應スル稅金額ヲ算出シ該帳ヲ添ヘ其金額ヲ(米商會所株式取引所)ニ納ムベシ

一(米商會所株式取引所)ハ仲買人ヨリ納ムル所ノ税金ヲ税金取扱帳ニ照查シ其金額ヲ領收シ仲買人納稅帳ニ領收證印ヲ捺シ之ヲ還付スベシ

但本文納稅帳ニハ證券印紙貼用ニ及ハズ

第四條 仲買人税金徵收ノ爲メ(米商會所株式取引所)ハ肝煎ノ中ニ於テ豫テ擔當員ヲ定メ其氏名並ニ領收證ノ印鑑ヲ地方廳ヘ届置クベシ

第五條 (米商會所株式取引所)ハ仲買人税金每一ヶ月分取集メノ上(第一號第二號)雛形ニ倣ヒ上納證書及仕譯書ヲ作り金額ハ當省爲替方ニ相預ケ其預リ切符ヲ添ヘ地方廳ヘ上納スベシ

第六條 地方廳ハ別紙第三號雛形ニ倣ヒ仲買人稅表ヲ調製シ(一月ヨリ六月マデ)ハ其年七月三十一日限リ(七月ヨリ十二月マデ)ハ翌年一月三十一日限リ當省租稅局ヘ差出スベシ

第七條 税金取扱帳及ヒ納稅通帳ハ米商會所株式取引所限リ適宜一樣ノ式ヲ定メ地方廳ヲ經由シ當省租稅局ヘ届出ベシ

但其様式ヲ變更スルハ其時々本文ノ手續ヲ爲スベシ

(雛形畧ス)

(參看)明治十八年三月大藏省第七號府縣達

當省達中(租稅局)租稅局長トアルハ(主稅局)(主稅官長)ト改ム

右相達候事

○第四款 金銀貨幣取引差許

明治十六年七月 第貳拾五號布達

神戶株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引ヲ差許ス

右布達候事

○第七章 酒造

○第一款 酒類課稅方法

明治十二年二月内務大藏 兩省乙第十二號府縣(一)達

○第三類 ○商法編 ○金銀貨幣取引差許 ○酒類課稅方法

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許鑑札下附致來候向モ有之候處右ハ醫藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト雖モ總テ酒類稅則ニ據リ課稅可致就テハ是迄下付致居候鑑札ハ返納致サセ可申此旨相違候事但鑑札返納ノ上ハ其品目内務大藏兩省ニ届出ツ可シ

〔別紙〕

精劑

酒精

ホフマン氏鎮痛液

甘硝石精

礮砂加阿魏精

アネース精

芳香礮砂精

カヤフーテ精

コロ、フォルム精

枸橼皮精

蟻精

再醱酒精

甘鹽精

礮砂精

複方白芷精

芳香精

複方アルモラシア精

龍腦精

桂皮精

山萸菜精

杜松子精

複方杜松子精

複方ラーヘンデル精

複方マスチツク精

椒性薄荷精

ミールシア精

迷迭香精

セルヒルリ精

双鸞菊精

失鳩容精

菲沃斯精

蕃木甞精

コロシム實精

幾丁

亞爾薛丁幾

双鸞菊丁幾

複方蘆薈丁幾 (蘆薈沒藥丁幾)

苦味丁幾

ラーヘンデル精

檸檬精

英國縮葉薄荷精

薄荷精

肉豆蔻精

石鹼精

芥子精

菘蓍精

實斐答利精

葛苳精

アルニカ花精

橙皮精

複方亞爾薛丁幾 芳香酸丁幾

蘆薈丁幾

ホーメ氏苦味丁幾

○第三類○商法編○酒類課稅方法

- アルニカ丁幾
- 阿魏丁幾
- 橙皮丁幾
- バルサム丁幾
- 安息香丁幾
- ビュッコ丁幾
- コロソポ丁幾
- 亞的兒製龍腦丁幾
- 亞的兒製芫菁丁幾
- 益智丁幾
- カスカリラ丁幾
- カナダ産カストル丁幾
- 阿仙藥丁幾
- 赤色機那丁幾
- キノイシネ丁幾
- 複方ヨロロホルム丁幾
- 桂皮丁幾
- 芳香丁幾
- 亞的兒製阿魏丁幾
- 新鮮橙皮丁幾
- 荳蔻丁幾
- 複方安息香丁幾
- 泥菴丁幾
- 複方龍腦丁幾
- 芫菁丁幾
- 蕃椒丁幾
- 複方益智丁幾
- 亞的兒製カストル丁幾
- シベリア産カストル丁幾
- 褐色機那丁幾
- 複方機那丁幾
- キラタ丁幾
- 黃色機那丁幾
- コイシネトル丁幾

- コルジウム丁幾
- 失鳩答丁幾
- 畢澄茄丁幾 (キヌベバ丁幾)
- 石鹼丁幾
- シキタリス丁幾
- 續隨子丁幾
- 鹽化鉄丁幾
- 林檎酸鉄丁幾
- ゲンチアナ丁幾
- 癩瘡木丁幾
- 揮發性癩瘡木丁幾 (礪砂加癩瘡木丁幾)
- ヘレニート丁幾
- ヒオス丁幾
- 複方ヨシウム丁幾
- 吐根丁幾
- 複方ヤーラツパ丁幾
- ラタニア丁幾
- コロシント丁幾
- サフラン丁幾
- 梔梘丁幾
- 複方アルモラシヤ丁幾
- 亞的兒製シキタリス丁幾
- 醋酸鉄丁幾
- 亞的兒製鹽化鉄丁幾
- 沒食子丁幾
- 複方ゲンチアナ丁幾
- 綠黎蘆丁幾
- 忽布丁幾
- ヨシウム丁幾
- 脱色ヨシウム丁幾
- ヤーラツパ丁幾
- キノ丁幾
- ラリシス丁幾

○第三類○商法編○酒類課稅方法

複方ライヘンデル丁幾 (ライヘンデル丁幾)
 檸檬^{レモン}丁幾
 亞的兒製ロベリア丁幾
 肉豆蔻丁幾
 麝香丁幾
 揮發鹽化鉄丁幾 (ベスマユヘフ氏神經丁幾)
 蕃木甕丁幾
 安息香阿片丁幾
 單阿片丁幾
 礮砂精加阿片丁幾
 複方松芽丁幾
 活失亞丁幾
 礮砂精加規尼涅丁幾
 大黃丁幾
 酒製大黃丁幾
 サピナ丁幾
 海葱丁幾
 ロベリア丁幾
 リユブリア丁幾
 亞的兒製肉豆蔻丁幾
 沒藥丁幾
 阿片丁幾
 舍電華謨氏阿片丁幾
 脫臭阿片丁幾
 地榆丁幾
 ヒレトリニム丁幾
 規尼涅丁幾
 ヤーラツバ脂丁幾
 水製大黃丁幾
 大黃加旃那丁幾
 麒麟血丁幾
 加里加海葱丁幾

麥奴丁幾
 旃那丁幾
 複方スピランナス丁幾
 亞的兒製馬錢子丁幾
 シユンブル丁幾
 トリユタナ丁幾
 纈草丁幾
 礮砂精加纈草丁幾
 生姜丁幾
 亞的兒製菴蓐丁幾
 亞的兒製非沃斯丁幾
 白黎蘆丁幾
 酒劑
 蔗薈酒
 芳香酒
 龍腦酒
 コロシクム酒
 遠志丁幾
 セルベンタリア丁幾
 蔓陀羅華丁幾
 琥珀丁幾
 チユヤ丁幾
 トキシコデンドリ丁幾
 亞的兒製纈草丁幾
 プアニルラ丁幾
 強生姜丁幾
 亞的兒製失鳩答丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾
 苦味酒
 橙皮酒
 機那酒
 コロシクム根酒

○第三類○商法編○酒類課稅方法

コロシクム實酒

麥奴酒

鎮酒

枸橼酸鎮酒(枸橼酸アンモニア鎮酒)

吐根酒

ヘアシネ酒

大黃酒

海葱酒

アンチモニ酒

煙草酒

酒石酸加里鎮酒

▲明治十二年八月内務大藏兩省乙第三十三號(府縣)達

本年二月乙第拾二號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣侯者ノ取扱方相達置候處右達書ニ掲載セル品目外ノモノニシテ酒類ヲ和スト雖モ全ク藥性ヲ浸出スルニ止マルモノハ酒類稅則ノ限ニアラズ其種類ニ依リ製藥又ハ賣藥ノ免許ヲ可爲受儀ト可相心得此旨相達候事

但酒造營業人及酒類受賣營業人於テ酒精或ハ再餾酒精ヲ蒸餾シ又ハ販賣スル者ハ酒類稅則中燒酎ノ明文ニ據リ課稅スベシ

○第二款 酒造稅未納者處分方

明治十六年八月

明治十年(十一月)第七十九號布告第二條第二項ノ場合ニ於テ其酒類及器械本人ノ所有ニ非サルトキハ所有主ニ通告シ處分スルハ本年(三月)第拾

六號達ノ通可心得此旨相達候事

▲明治十六年三月第拾六號達

明治十年(十一月)第七拾九號布告第二條但書ノ場合ニ於テハ債主ニ其未納稅アル旨ヲ通告シ債主之ヲ辨納セサル時ニ公賣ヲ行フベキ儀ト可心得此旨相達候事

〔參看〕明治十年十一月第七拾九號布告租稅未納者處分法ハ前編第一類第七章第五款ニ掲出ス

○第三款

酒造稅則違犯 証憑取調方

明治十六年十二月 大藏省第七十七號達

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ヲシテ立會ハシメ候様取計フベシ此旨相達候事

〔參看〕明治十六年十二月第四十三號布告ハ前編第三類第六章第二款ニ掲出ス

○第八章 暫翹

○第三類○商法編○酒造稅未納者處分方

○第一款 蕎麴營業稅則 取扱心得

明治十三年十一月大藏省 乙第四拾號(府縣へ)達

本年九月第四拾壹號ヲ以テ蕎麴營業稅則御布告相成候ニ付右取扱心得書 別紙ノ通相定候條此旨相達候事

蕎麴營業稅則取扱心得書

第一款 營業免許

第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租稅局へ申出之ヲ受取 置クベシ

第二項 免許鑑札離形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ

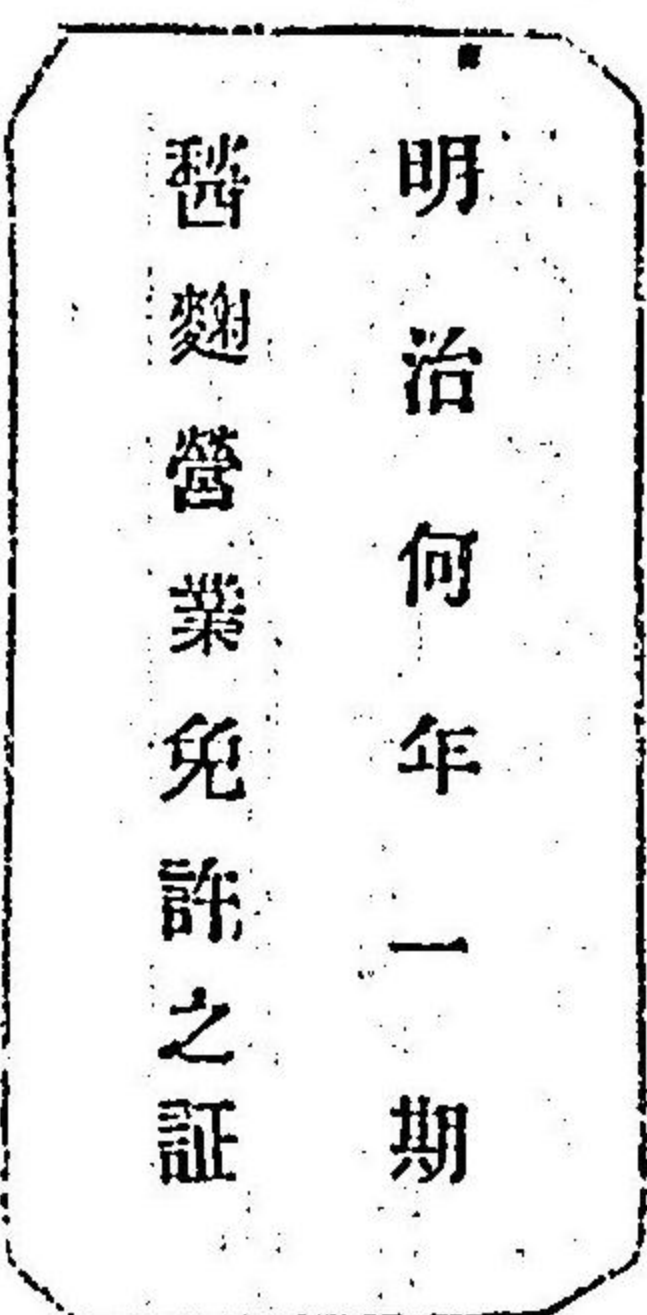
第三項 製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免 許鑑札ヲ授與スヘシ

第四項 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者ア ルキハ最初授與シタル鑑札差出サセ其鑑札ノ裏面へ該期ノ免許證印(第 五項離形ノ如シ)ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但鑑札裏面餘白盡キタルキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項 免許證印ハ左ノ離形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

但其證印方郡區長へ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡 スヘシ



細輪廓 角切 字体楷書
印肉朱 寸法堅巾曲尺一寸四分
横巾曲尺四分

第六項 稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書替方若シ甲乙兩管廳ニ交 涉スルキハ雙方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添へ甲管廳(賣渡讓渡人所在 ノ管廳)ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳(買受讓受人所在ノ管廳)へ ノ添翰(該期免許稅納濟且免許鑑札ハ取置キタル旨明記スヘシ)ヲ作り 之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書替鑑札ノ下渡方ヲ爲 スヘシ

但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ 據ルベシ

第七項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムベシ

○第三類○商法編○蕎麴營業稅則取扱心得

第八項 廢業並書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締無之様消却スベシ
第九項 稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ離形ニ倣ヒ調製セシム可シ

寸法 豎巾曲尺三尺 横巾曲尺八寸

免許鑑札ノ番號

第何號

齧 麴 賣 捌 所

何府(縣)國郡(區)町(村)番地

何 某

第十項 稅則第五條賣上帳簿差出シタルキハ其記載ノ石數及ヒ購求者居所姓名等精駁ニ檢査ヲ遂ケ檢印ノ上下渡スベシ而シテ該帳簿ハ營業中之ヲ保存セシムベシ

第十一項 營業取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スベシ

第二款 申牒期限

第十二項 稅則第四條販賣見込ノ石數ハ每一期分第二號離形ニ倣ヒ石數

表ヲ調製シ其期十一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スベシ

但本文届出ノ後其増減ハ三ヶ月毎ニ取纏メ製表ノ上翌月十五日限リ

差立テ租稅局ヘ送付スベシ

第十三項 新規營業人員ハ三ヶ月毎ニ取纏メ第三號離形ニ倣ヒ人名表ヲ

調製シ翌月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スベシ

第十四項 免許鑑札受拂ハ每一期分第四號離形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌

期十月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スベシ

第十五項 返納鑑札消却ノ分ハ第五號離形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十

月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スベシ

第十六項 營業稅ハ每一期分第六號離形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三

十日限リ差立テ租稅局ヘ送付スベシ

第十七項 販賣シタル石數ハ每一期分第七號離形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ

翌期十一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スベシ

(以下離形略ス)

(參看)明治十八年三月大藏省第七號(府縣)達

當省達中(租稅局)租稅局長)トアルハ(主稅局)主稅官長)ト改ム

右相達候事

○第二類○商法編○齧麴營業稅則取扱心得

〔參看〕明治十三年九月第四拾壹號布告稽勸營業稅則ハ前編第三類第七章第一款ニ掲出ス

○第二款 同稅則違犯證憑

明治十六年十二月大藏省第七十七號府縣へ達

本年第四十三號布告ニ據リ人民ノ家宅内ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ヲシテ立會ハシメ候様取計フヘシ此旨相達候事

〔參看〕明治十六年十二月第四十三號布告ハ前編第三類第七章第二款ニ掲出ス

○第九章 醬油

○第一款 醬油稅則

明治十八年五月第十號布告

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

醬油稅則

第一款

凡ソ醬油(溜リヲ併稱ス)ヲ製造シテ營業セシト欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二款

免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 製造高壹石ニ付 金壹圓

第三款

免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四條

醬油製造人廢業スルトキハ管廳ニ届出免許鑑札ヲ還納スヘシ

第五條

免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條

營業稅ハ一ヶ年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同シ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

○第三類○商法編○醬油稅則

第七條

造石税ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムベシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第八條

醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管廳ニ届出檢査ヲ受クベシ

第九條

廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ届出檢査ヲ受ケ其石數ニ就キ納稅スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡シ又ハ二ヶ所以上ニ於テ製造スル者其一ヶ所以上ヲ廢シ尙ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨届出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ檢査ヲ受クヘシ

第十條

檢査未濟ノ醬油ト檢査既濟ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日

以内ニ其旨管廳ニ届出更ニ總石數ヲ以テ檢査ヲ受ケ納稅スヘシ

第十一條

檢査既濟ノ醬油其造石稅納期內ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢業ニ屬シ若シハ廢敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條

外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ニ於テ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ノ陸揚免狀若シハ其他ノ證憑ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ差出シ其造石稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條

醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油仕込帳

醬油賣上帳

第十四條

○第三類○商法編○醬油稅則

醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十五條

醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條

醬油製造人ハ毎年一月三十一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ヲ管廳ニ届出ヘシ新ニ開業セシ者ハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以内ニ之ヲ届出ヘシ但見込石數ノ増減並ニ製造方法ノ變換ハ其時々届出ヘシ

第十七條

醬油製造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ管廳ニ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第十八條

醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サス

第十九條

醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ検査ヲ受ケ其造石

稅ヲ納ムヘシ

第二十條

醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十一條

醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一个年壹斗五升ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條

醬油製造人ノ醬油仕込高並ニ仕込ニ屬スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十三條

主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帯スベシ

第二十四條

第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタ

○第三類○商法編○醬油稅則

ル者ハ其代金ヲ追徴ス

第二十條ニ違ヒ佃賣人小賣人ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十五條

醬油ヲ隠蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ハラズ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス但檢査既濟ノ醬油ト檢査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隠蔽シタル者ハ其總石數ニ就テ論ス

第二十六條

第八條第九條第十條ノ檢査ヲ受ケスシテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ追徴ス

第二十七條

第十八條ニ違ヒ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ製造場ヲ貸シタル者又ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス

第二十八條

第五條ニ違ヒ免許鑑札ヲ賣買貸借及ヒ讓受讓渡シタル者第十二條ニ違ヒ

帳簿ヲ調成セズ若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ檢査ヲ受ケスシテ容器ヲ使用シタル者又ハ第十五條ニ違ヒ開封ヲ爲シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條

第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條

醬油製造人ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第二款

醬油稅則取扱心得書

明治十八年五月大藏省第廿二號(府縣)達

本年五月第拾號ヲ以テ醬油稅則公布相成候ニ付右稅則取扱心得書別冊之通定ス

但別冊ハ主稅局ヨリ送付スヘシ

○第三類○商法編○醬油稅則取扱心得書

右相達候事

▲明治十八年五月大藏省第二拾五號(府縣へ)達

本年五月第拾號第拾壹號公布ニ依リ醬油并菓子營業人へ下與スヘキ免許
鑑札別紙見本之通相定ム

但見本ハ主税局ヨリ送付スベシ

右相達候事

○第十章 菓子

○第一款 菓子税則 明治十八年五月 第十壹號布告

菓子税則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ
施行セス

右奉 勅旨布告候事

菓子税則

第一條

菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人

菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人

菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人

菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條

菓子營業者ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クベシ但一人ニテ
二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ
營業鑑札ヲ受クベシ

第三條

菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ
管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スベシ

第四條

鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムベシ

營業鑑札料

一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料

一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料

一枚ニ付金拾錢

第五條

○第三類 ○商法編 ○菓子税則

鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フベシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムベシ

第六條

菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スベシ

第七條

鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條

菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼スル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スベシ
製造營業稅

雇人十人以上アル者 一ケ年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一ケ年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一ケ年 金拾圓

雇人二人以下アル者 一ケ年 金五圓

雇人ナキ者 一ケ年 金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一ケ年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一ケ年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一ケ年 金拾圓

雇人二人以下アル者 一ケ年 金五圓

雇人ナキ者 一ケ年 金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一ケ年 金七圓

雇人二人以下アル者 一ケ年 金三圓

雇人ナキ者 一ケ年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ分タス之ヲ合算スルモノトス
露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條

營業稅ハ一ケ年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムベシ

第十條

營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムベシ但雇人

○第三類○商法編○菓子稅則

増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條

菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ係ル分 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條

菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ベシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ベシ

第十三條

菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ベシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス
一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條

菓子製造人ハ菓子并ニ其製造原品ノ賣買ヲ帳簿ニ記載シ置ベシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

第十五條

菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十六條

主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帯スベシ

第十七條

第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス

第十八條

第十二條第十三條ノ届書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者

○第三類○商法編○菓子稅則取扱心得書

ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條

第二條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セズシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條

第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條

菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第二款 菓子稅則 取扱心得書

明治十八年五月大藏省
第廿四號(府縣)達

本年五月第拾壹號布告ヲ以テ菓子稅則被定候ニ付取扱心得書別冊之通相定ム

但別冊ハ主稅局ヨリ送付スヘシ

右相達候事

▲明治十八年五月大藏省第二拾五號(府縣)達

本年五月第拾號第拾一號公布ニ依リ醬油并菓子營業人へ下與スヘキ免許鑑札別紙見本之通相定ム

但見本ハ主稅局ヨリ送付スヘシ

右相達候事

○第十一章 煙草

○第一款 煙草稅則取扱心得

明治十六年四月大藏省
第二十號(府縣)達

客年(十二月)第六十三號布告ヲ以テ煙草稅則改定相成候ニ付取扱心得方別紙ノ通相定候條此旨相達候事

煙草稅則取扱心得書

第一項 煙草營業免許鑑札並煙草印紙ハ其員數ヲ見積リ租稅局ヨリ之ヲ受取ルベシ

○第三類○商法編○煙草稅則取扱心得

但烟草印紙ノ受拂ハ總テ證券印紙ノ例ニ準スベシ
第二項 烟草仕入鑑札出賣鑑札烟草印紙買入鑑札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ府縣
廳ニ於テ調製シ之ヲ下渡スベシ

木製

寸法
豎巾二寸三分
横巾一寸七分

番號
仕入出賣ノ文字ハ營業ノ種類ニ依リ記載スベシ

表
番號

烟草仕入
出賣鑑札

(製造)
(仲買)
(小賣)
人住所姓名
携帶人姓名

裏
明治何年何月

管轄廳燒印

番號

表

煙草印紙買入鑑札

(製造)
(仲買)
(小賣)
人姓名

裏

明治何年何月

管轄廳燒印

面

面

欠

MISSING

姓名印

何府縣長官宛

前書之通相違無之候間與印ノ上差出候也

戶長

姓名印

第三條 傳習志願人ヨリ差出シタル願書ハ府縣廳ニテ各一通ヲ取纏メ二月十五日限リ勸農局ヘ送付スヘシ

但志願人無之モ亦本文期迄ニ其旨同局ヘ申報スヘシ

第四條 勸農局ハ製茶季節ヲ量リ製茶場並ニ該場開鎖ノ月日ヲ豫定シ各管轄廳ヲ經テ本人ヘ達スヘシ

第五條 傳習人往復旅費ハ勿論茶場從事中共賃錢ヲ給セス尤格別勉勵現業練達ナル者ハ製中至當ノ賃錢ヲ與フルコトアル可シ

第六條 傳習人茶場使役中總テ勸農局吏員ノ命令ニ違背スヘカラサルヘシ

但品行不正且成業ノ見留無之モノハ勸農局吏員ヨリ傳習差留メ直チニ退場ヲ命スヘシ

第七條 傳習人茶業熟成スルモノハ將來左雛形ノ如キ卒業免許狀ヲ勸農局ヨリ付與スベシ
免狀雛形

第何號	何府縣族籍
印度風紅茶製造傳習卒業候事	姓名
年月日	勸農局

第八條 卒業免許狀ヲ受ケタル者ハ勸農局ノ都合ニ由リ使用シ製法教授ノタメ各地派遣ヲ命スルコトアルヘシ
但本文使用スル時ハ相當ノ給料ヲ與フヘシ
第九條 卒業免許狀ヲ受ケタルモノ何レノ地方ヲ問ハス之レヲ他人ニ傳ヘ又ハ備ハレテ茶製スルモ勝手タルヘシ

但シ本文ノ如キ時ハ其所轄廳へ届出該廳ニ於テハ其事由ヲ詳記シ勸農局へ通知スヘシ

第十條 傳習人ハ勸農局ノ卒業免許狀ヲ待タズシテ擅ニ他人ニ傳ヘ或ハ備レ紅茶製造ス可カラズ

第十一條 卒業免許狀ヲ受ケタル甲ノモノ之ヲ乙ノモノへ傳ヘ乙竟ニ熟業スルニ至リ甲之レカ保證ヲナシ卒業免許狀ヲ乞フ時ハ勸農局吏員試驗ノ上第七條ノ如ク之レヲ授與スヘシ

但本文ノ時ハ左書式ノ如ク甲ノモノヨリ願書ニ通其管廳ヲ經テ勸農局へ差出スヘシ

卒業免許狀下渡願書式 料紙美濃紙二ツ折
御免狀御下渡願

何府縣族
何大區何小區何町何番地住某長次男或
姓 寄留同居 名

右之者へ印度風紅茶製法私ヨリ兼テ教授及候處全ク熟業仕候ニ付卒業御免狀御下渡相成候様仕度右習熟ノ儀ハ於私保證仕候間勸農局へ御申

○第三類○商法編○紅茶製方傳習規則

立被下度此段奉願候也

勸農局製茶傳習卒業

年月日

何府 縣族藉

何府 縣長官宛

姓 名 印

第十二條 假令卒業免許狀ヲ受ケタルモノト雖モ他ニ備ハレテ茶製シ或ハ 教授スル時不相當ノ給料ヲ食リ又ハ組製スルキハ一旦授與シタル免許 狀ヲ取揚可シ

第十三條 傳習人茶場從事中病ニ罹リ又ハ事故アリテ退場ヲ乞フモノハ 之ヲ許スヘシ

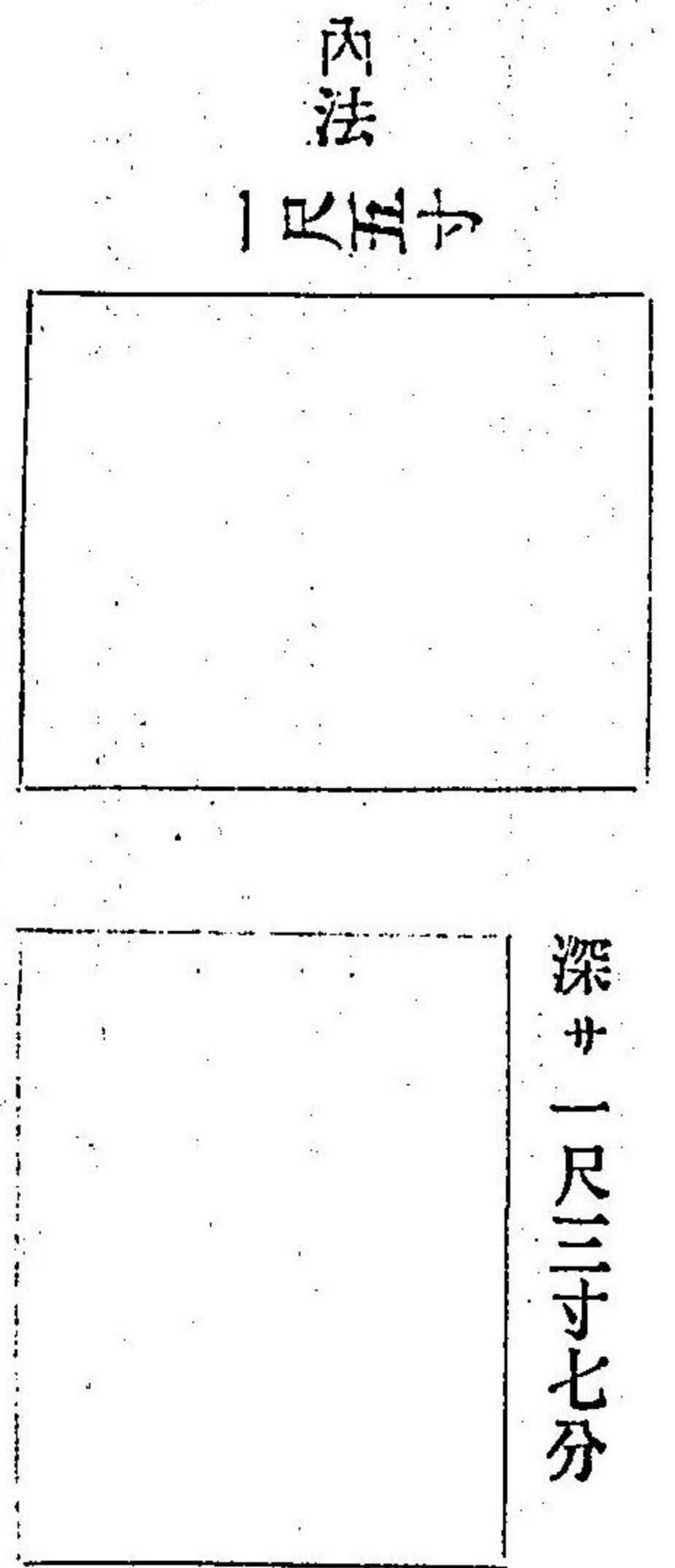
第十四條 (明治十二年同省甲第一號布達ヲ以テ本條中改正) 卒業ノモノ 製造輸出ノ紅茶ハ必ス左ノ品名ニ區別スヘシ

- 白毫 白毫
- 碎白毫 白毫
- 小種 ソウチヨン
- 工夫 工夫
- 武彝 武彝
- 箕子 フアンニンク

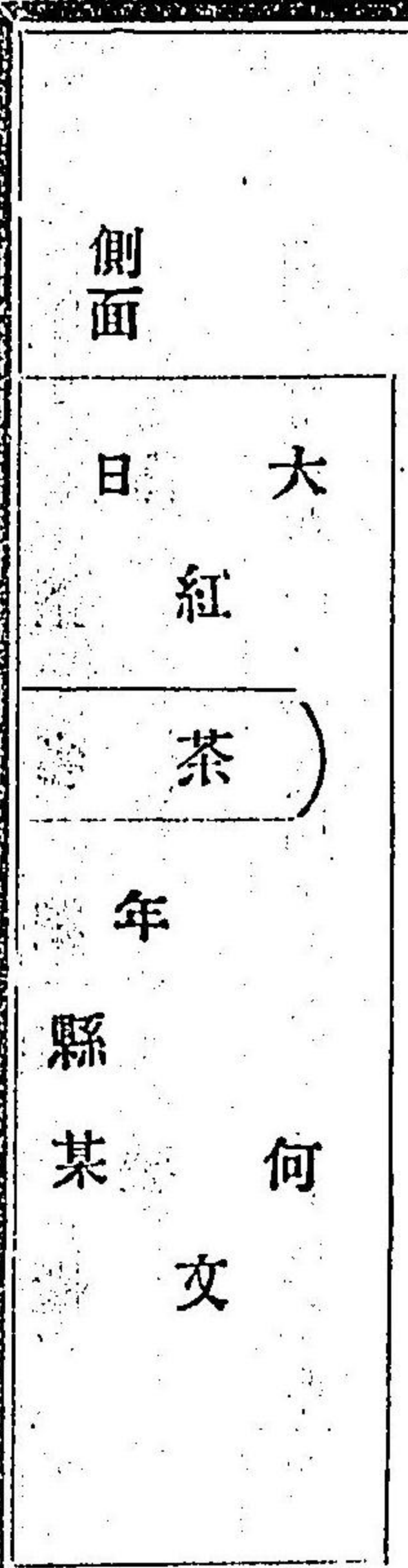
粉末 ダスト

磚茶 (ブレッキチ) 粉茶ヲ用テ製スルモノ

第十五條 製造ノ紅茶各品區別ノ上左ノ雛形ノ如キ箱ヲ用ヒ鉛板ニテ封 裝スヘシ



第十六條 茶箱ニハ左ノ書式ノ如ク茶名記號等ヲ記載スヘシ



○第三類○商法編○紅茶製方傳習規則

本 茶 名 號 名 製 橫

第十七條 傳習人員ハ勸農局ノ都合ニヨリ毎年増減シ又ハ該規則ヲ改正スルコアルヘシ

○第十四章 貿易

○第一款 朝鮮國貿易

明治十六年十二月大藏省第三百二十二號告示

朝鮮國貿易ノ儀ニ付本年第四十號布告ノ趣有之候間長崎縣下對馬國嚴原山口縣下長門國下ノ關福岡縣下筑前國博多ノ三港ニ長崎稅關出張所ヲ設置シ明治十七年二月一日ヨリ開廳同貿易ニ關スル事務爲取扱候條此旨告示候事

〔參看〕明治十六年十二月第四十號布告ハ前編第三類第十七章第二款ニ掲出ス

▲明治十八年五月外務省第四號告示
今般朝鮮國政府於テ同國漢城ヲ開市場ト相定候條本年三月十二日以後該場へ渡航通商スルヲ得ヘシ
右告示候事

○第四類 訴訟編

○第一章 裁判所權限

○第一款 治安裁判所權限

明治十五年一月第五號布告

明治十四年(十二月)第八十三號ヲ以テ民事裁判權限ノ儀布告候處當分ノ内西郷、相川、豐岡、洲本、田邊、脇町、高山、平戸、福江、嚴原、天草、大曲、八戸、大島、治安裁判所ニ於テ民事ノ訴訟ハ始審裁判所ノ權限ヲ以テ裁判スヘシ但請求ノ金額及ヒ價格百圓未滿ノ件ニ關スル控訴ハ管轄始審裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

右奉 勅旨布告候事

▲明治十五年十一月司法省丁第五十七號(裁判所へ)達
大津治安裁判所ヨリ左ノ通請訓有之朱書ノ通及内訓候條此旨爲心得相達候事

大津治安裁判所請訓 (明治十五年一月九日)

明治十四年第八十三號布告第一條ニ但諸官廳ニ對スル事件云々トアリ右諸官廳トハ郡區長ハ勿論戶長ニ對スル事件ト雖モ勸解スルノ限ニ在ラサル歟

○第四類 ○訴訟編 ○治安裁判所權限

内訓 (明治十五年一月廿五日)

見解ノ通

○第二款 裁判所管轄區畫

明治十七年十月
第貳十七號布告

明治十六年(一月)第貳號布告裁判所一覽表中左ノ通増補改正ス但新置裁判所開廳ノ期日ハ司法卿ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

一山形始審裁判所酒田支廳管内鶴岡ニ治安裁判所ヲ置キ羽前國東田川西田川兩郡ヲ管轄ス

一秋田始審裁判所大曲支廳管内横手ニ治安裁判所ヲ置キ羽後國雄勝郡及ヒ平鹿郡ノ内ヲ管轄ス

一千葉始審裁判所木更津支廳管内北條ニ治安裁判所ヲ置キ安房全國ヲ管轄ス

一福岡始審裁判所久留米支廳管内久留米治安裁判所管轄郡名中全國十郡トアルヲ三潞ノ内上妻下妻生葉竹野山本御原御井ノ十八字ニ改メ

同柳川治安裁判所管轄中(三潞ノ内)四字ヲ加フ

一秋田始審裁判所大曲支廳管内大曲治安裁判所管轄郡名中平鹿ノ下ノ内ノ三字ヲ加フ

一宮崎始審裁判所管内宮崎治安裁判所管轄郡名中北諸縣ノ内トアルヲ(東諸縣)ト改メ那珂ノ内トアルヲ(北那珂南那珂ノ内)ト改メ同管内都城治安裁判所管轄郡名中北諸縣ノ内トアルヲ(北諸縣)ト改メ那珂ノ内トアルヲ(南那珂ノ内)ト改メ更ニ(西諸縣)ノ三字ヲ加ヘ同管内延岡治安裁判所管轄郡名中臼杵トアルヲ(東臼杵)ト改ム

右奉 勅旨布告候事

○第三款

治安裁判所
管轄町村名
明治十六年一月司法省
甲第一號告示

本年第二號公布裁判所管轄表中某郡ノ内ト掲載アル町村ノ區域ハ別紙ノ通心得ヘシ
右告示候事

治安裁判所管轄區郡分管町村名
水戸治安裁判所

- 鹿島郡ノ内
- 小堤村 駒場村 神宿村 城ノ内村
- 海老澤村 宮白ヶ崎村 澤尻村 上金村
- 成田村 神山村 上下太田村 田崎村

○第四類○訴訟編○裁判所管轄區畫

網掛村	鉾田村	畑田村	白塚村
柏熊村	柏熊新田	徳宿村	塔ヶ崎村
當間村	飯名村	安房村	秋山田村
鳥柳村	柏木根村	椴山村	瀧濱村
上下富田村	紅葉村	大和田村	鹿田村
造谷村	荒地村	子生村	勝下村
勝下新田	玉田村	大戸村	安塚村
二重作村	札村	梶山村	青山村
河玉村	江川村	中居村	大藏村
飯島村	上澤村	汲上村	臺濁澤村
大竹村	菅野谷村		

土浦治安裁判所

鹿島郡ノ内

水戸治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

下田治安裁判所

加茂郡ノ内

沼津治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

沼津治安裁判所

加茂郡ノ内

總代村	上多賀村	熱湯村	伊豆山村
初島村	泉村	十足村	萩村
鎌田村	岡村	竹ノ内村	吉田村
川奈村	新井村	和田村	松原村
湯川村	宇佐美村	筏場村	貴僧防村
姫ノ湯村	戸倉野村	地藏堂村	原保村
管引村	中原戸村	徳永村	冷川村
柳瀬村	八幡村	關野村	城村
宮上村	梅木村	上白岩村	

松本治安裁判所

東筑摩郡ノ内

大町治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

西筑摩郡ノ内

奈良井村 贊川村

南安曇郡ノ内

○第四類○訴訟編○治安裁判所管轄町村名

大町治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

北安曇郡ノ内

七貴村

上伊那郡ノ内

小野村

三里村

伊那富村

中箕輪村

西箕輪村

南箕輪村

伊那村

飯田治安裁判所

上伊那郡ノ内

松本上諏訪両治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

上諏訪治安裁判所

上伊那郡ノ内

藤澤村

長藤村

上山田村

小原村

勝間村

非持村

山下室村

荊口村

芝平村

長谷村

東高遠村

美薦村

伊那郡村

澤岡村

西高遠村

東箕輪村

三日町村

福與村

福島村

東箕輪村

赤羽村

澤底村

樋口村

平井出村

大町治安裁判所

北安曇郡ノ内

松本治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

南安曇郡ノ内

有明村

東筑摩郡ノ内

生坂村

福島治安裁判所 信濃

西筑摩郡ノ内

松本治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

長野治安裁判所

埴科郡ノ内

上田治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

更級郡ノ内

上田治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

上水内郡ノ内

飯山治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

○第四類○訴訟編○治安裁判所管轄町村名